

お金の知識を あなたの力に

岡山商科大学 創立60周年記念講演会

金融経済教育の 重要性と資産形成

2025年10月21日

金融経済教育推進機構(J-FLEC)

理事長 安藤 聡

J-FLEC

金融経済教育推進機構



あんど う さとし
理事長 安藤 聡



生年月日:1955年1月27日
出身:東京都

<略歴>

- ◆ 1977年慶應義塾大学法学部卒業、(株)東京銀行(現(株)三菱UFJ銀行)入行、本店営業部・ニューヨーク・大阪支店・人事・日本国債トレーディング・外国債券ポートフォリオ運用・法人営業企画・合併委員会小委員会事務局・検査企画・資産運用企画(副部長)・ジャカルタ支店(支店長)を経て、2007年(株)三菱東京UFJ銀行退職。
- ◆ 2007年オムロン(株)入社、常勤監査役、2011年執行役員経営IR室長、2015年執行役員常務グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部長、2017年6月取締役役に就任、社長指名諮問委員会、人事諮問委員会、報酬諮問委員会 各副委員長、2023年6月オムロン(株)退社。

<主な公的活動>

(過去)

- | | |
|------------|--|
| 2014年 | 経済産業省主催研究会「伊藤レポート」委員、2017年「伊藤レポート2.0」委員、「価値協創ガイダンス」策定ワーキンググループに参画。 |
| 2014～2017年 | 国際統合報告評議会(IIRC)主催実務者協議会に参加。 |
| 2016～2019年 | GPIF主催「企業・アセットオーナーフォーラム」企業側代表幹事を務める。 |
| 2017～2023年 | (公財)国際高等研究所評議員を務める。 |
| 2022～2023年 | 内閣府主催「知財投資・活用戦略の有効な開示及びガバナンス検討会」委員を務める。 |
| 2022～2024年 | 東京証券取引所主催「市場区分見直しに関するフォローアップ会議」メンバーを務める。 |

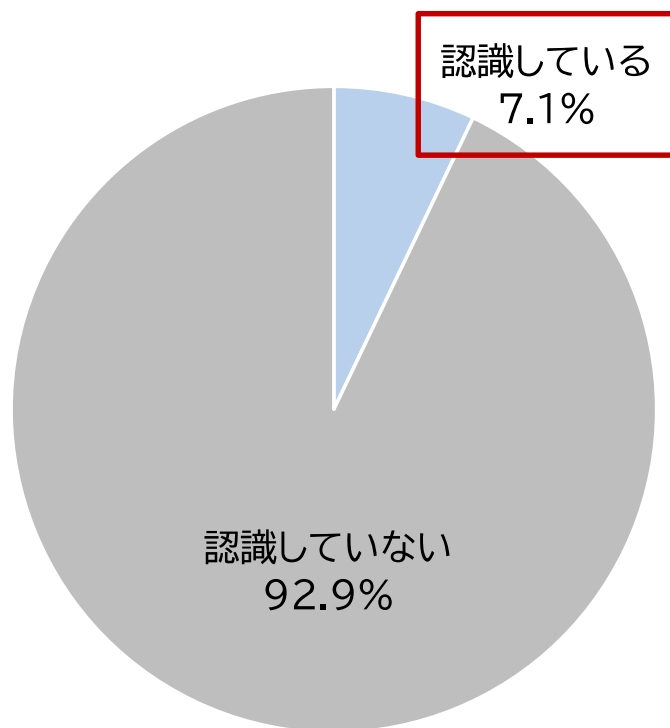
1. 金融経済教育の重要性とJ-FLECが果たす役割
2. 中立・公正な教育の担い手J-FLEC認定アドバイザー
3. J-FLECの事業概要
4. J-FLECの今後の展望
5. 大学生向けデモ授業



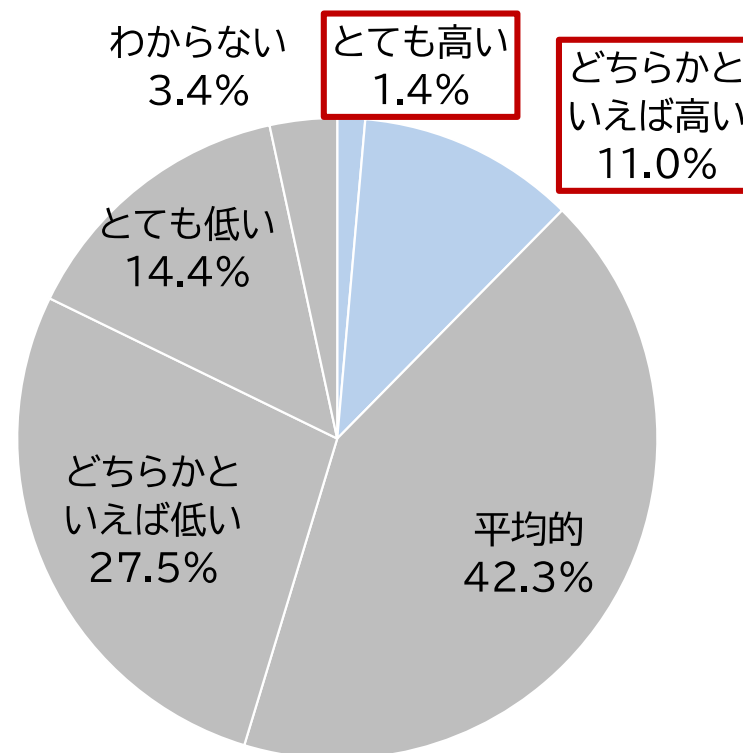
1. 金融経済教育の重要性と J-FLECが果たす役割

- 金融経済教育を受けたと認識している人は7%程度。
- 金融経済教育を受ける機会が国民に十分に行き届いているとは言えない状況にあり、金融知識に関して自信のある人は1割程度にとどまっている。

(金融経済教育を受けたと認識している人の割合)

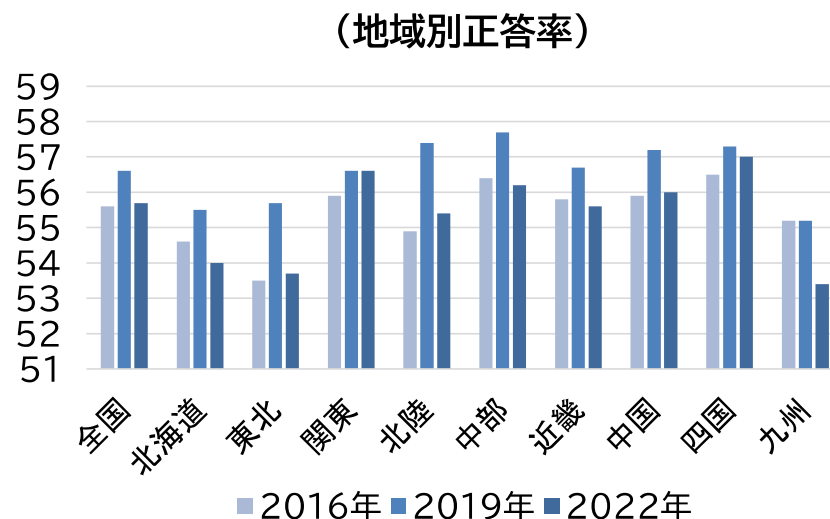
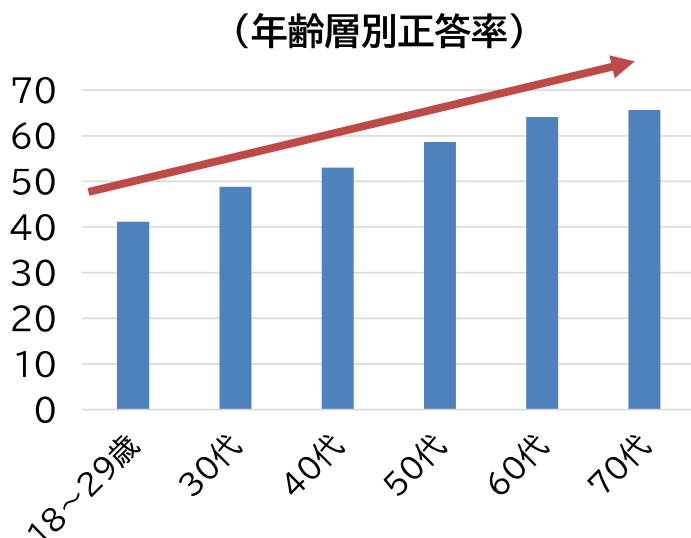


(金融知識に関する自己評価)



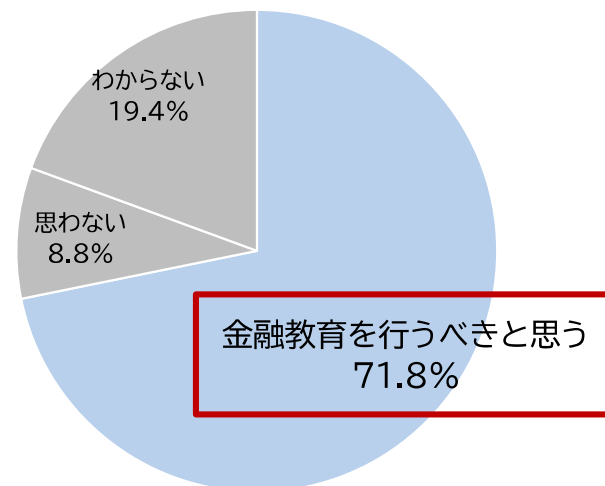
(出所)金融広報中央委員会「金融リテラシー調査(2022年)」

- 金融知識・判断力に関する正誤問題の正答率は、年齢層が高いほど高くなる傾向がある。
- また、地域別の正答率にも差がある。



- 金融経済教育を受けたと認識している人は7%程度にすぎない一方、金融経済教育を行うべきと回答した人は7割を上回っており、金融経済教育に対するニーズは非常に強いと考えられる。

(金融経済教育を求める声)



(出所)金融広報中央委員会「金融リテラシー調査(2022年)」

安定的な資産形成の支援に関する基本方針(2024年3月15日閣議決定)に掲げている政府目標

金融経済教育を受けたと認識している人の割合

米国並みの

7%

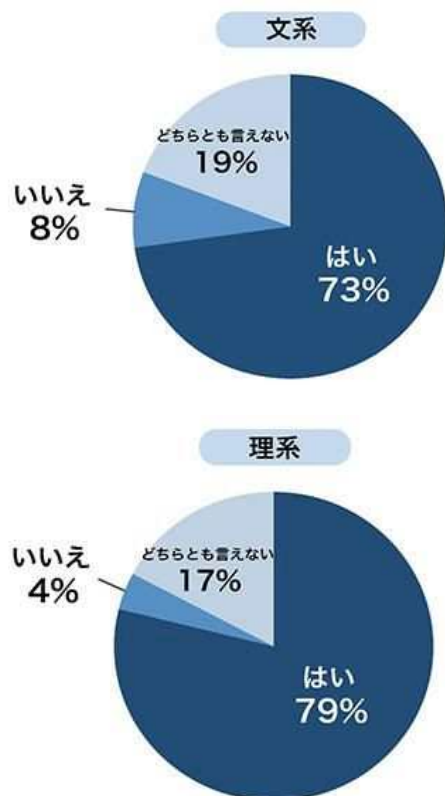


20%

(2028年度末)

- **Z世代と呼ばれる学生による企業選択のポイント**は、安定性⇨安心感⇨「社風とのマッチング」や「福利厚生制度の充実」。これらのほか、「**成長環境**」も重視されている。
- とりわけ、会社が用意する**研修制度への注目は高い**。

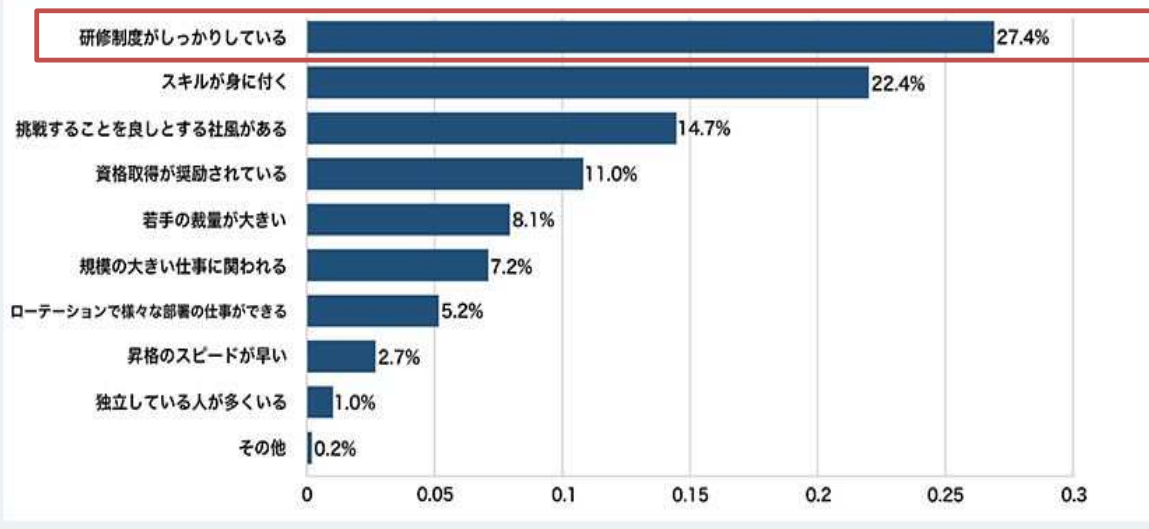
<企業選択において自身が成長できる環境課どうかを重視していますか。>



<成長できる環境とはどんな環境のことを思い浮かべますか。>

※ 上位3つまで選択

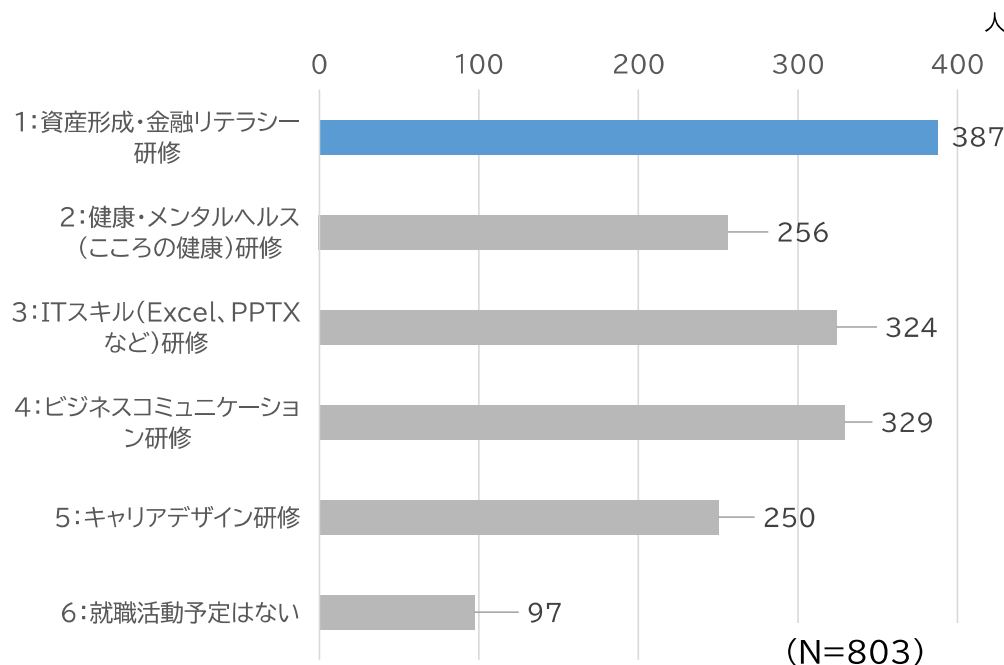
成長できる環境とはどんな環境のことを思い浮かべますか。※上位3つまで選択



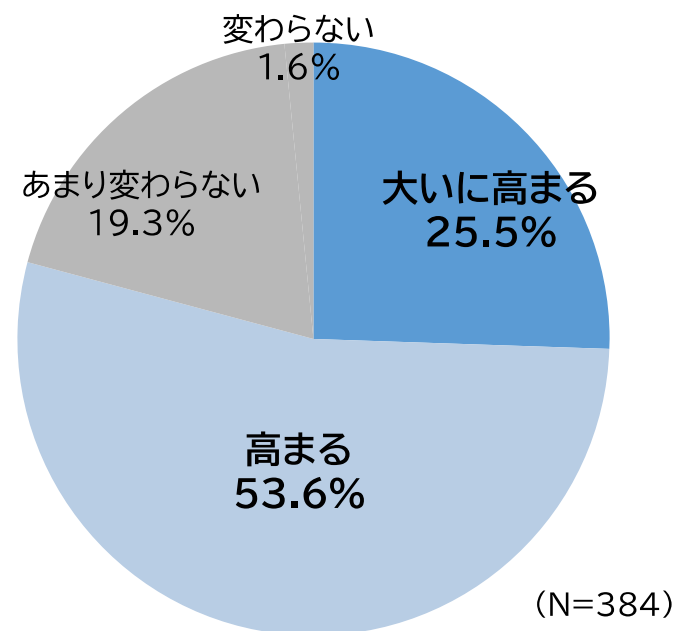
(出所)HUMAN CAPITALサポネットpowered by マイナビ「2023年卒学生に調査！企業選びの本音に迫る。学生にとっての「安心・安定」「成長環境」とは？」

- Z世代と呼ばれる学生が企業や職場を選ぶ際に用意してくれたら良いと思う研修としては、**「資産形成・金融リテラシー研修」への関心度が高く、それを企業が積極的に導入している場合には、学生の志望度が高まることが見込まれる。**
- 企業による従業員向け「資産形成・金融リテラシー研修」の実施など、職域教育の積極的展開は、**従業員の新規採用やリテンションの強化に寄与し得るものと考えられる。**

企業や職場を選ぶ際、用意してくれたら良いと思う研修は次のうち何ですか(複数回答可)



「資産形成や金融リテラシー研修」について、企業が、こうした研修を積極的に導入している場合、あなたの志望度合いはどの程度変わりますか



(出所)2023年11月～12月に金融庁が行った大学生向け授業でのアンケート結果及び2023年9月～2024年2月に金融経済教育推進会議が行った大学連携講座でのアンケートより金融庁作成

□ 金融知識に関する日本の正答率は、OECD調査参加国の平均程度(40か国中21位)にとどまる。

	参加国 平均	1位 香港(中国)	2位 ドイツ	3位 エストニア	4位 韓国	5位 スウェーデン	6位 アイルランド	7位 ポーランド	8位 フィンランド	9位 ハンガリー	10位 ルクセンブルク	11位 タイ
合計	58.6	89.1	82.5	74.1	71.4	69.1	68.8	68.7	67.7	67.5	67.4	66.8
①金利	49.3	94.3	81.4	75.5	75.9	63.2	63.2	68.8	57.2	66.0	70.3	77.6
②複利	26.2	78.0	66.4	46.8	41.4	48.8	31.7	33.2	39.3	23.2	45.4	35.3
③リスクと リターン	76.6	92.1	84.0	83.7	88.2	79.6	88.8	86.5	82.6	89.8	73.7	79.1
④インフレ	83.5	98.3	96.7	93.3	80.8	83.8	97.8	88.7	85.0	92.6	87.5	74.0
⑤分散投資	58.8	82.9	84.1	71.0	70.4	70.1	62.4	66.2	74.7	65.9	59.9	68.1

	12位 キプロス	13位 クロアチア	14位 マレーシア	15位 フランス	16位 オランダ	17位 ギリシャ	18位 マルタ	19位 サウジアラビア	20位 スペイン	21位 日本	22位 ウルグアイ	(以下) ポルトガル チリ コスタリカ ラトビア ヨルダン ペルー メキシコ パナマ アルバニア パラグアイ リトアニア イタリア ブラジル ルーマニア 等
合計	66.5	65.5	64.6	63.6	61.8	61.6	60.8	60.7	59.6	59.1	56.7	
①金利	76.8	58.8	65.1	51.9	68.9	59.1	83.3	55.5	49.6	68.0 (11位)	21.8	
②複利	27.7	24.7	35.5	30.5	46.2	35.7	38.4	41.7	21.8	38.8 (10位)	19.2	
③リスクと リターン	88.7	75.8	87.3	80.8	66.0	74.1	-	64.6	84.8	75.2 (23位)	89.7	
④インフレ	88.0	94.6	82.6	84.5	79.2	90.5	-	72.5	89.5	63.3 (38位)	91.8	
⑤分散投資	51.2	73.6	52.3	70.3	48.8	48.5	-	69.2	52.0	50.2 (28位)	60.9	

【出所】OECD INFE(2023年)、金融リテラシー調査(2022年)

(注)日本はOECD調査不参加。日本の順位は、金融リテラシー調査の調査結果をOECD調査の参加国39か国の調査結果と比較した場合の順位。

- **金融経済教育推進機構**(通称:『**J-FLEC**』(ジェイフレック))は、特別の法律^(注1)に基づく**国の認可**を受け、**中立・公正な立場**から、**官民一体**で金融経済教育を推進する**唯一の公的機関**^(注2)です。
- 幅広い年齢層の国民の皆様に向け、一人ひとりのニーズに合わせた金融経済教育の機会をご提供しています。
特定の金融商品への**勧誘や誘導は一切行いません**。

(英) J-FLEC : Japan Financial Literacy and Education Corporation

(注1) 根拠法：金融サービスの提供及び利用環境の整備等に関する法律（2024年2月1日 改正法施行）

(注2) 金融庁所管の認可法人



名称

金融経済教育推進機構

(英)J-FLEC: Japan Financial Literacy and Education Corporation

設立

2024年4月5日

資本金

10 億 5,729 万 6 千円

政府	:10 億 729 万 6 千円	(5,000万円)
日本銀行	:2,500 万円	(2,500万円)
全国銀行協会	:1,250 万円	(1,250万円)
日本証券業協会	:1,250 万円	(1,250万円)

(注)()内は、政府による設立にかかる初期費用を除くベース

職員数

約80名

ウェブサイト

<https://www.j-flec.go.jp/>

J-FLEC公式Xアカウント

https://x.com/J_FLEC?s=09



根拠法

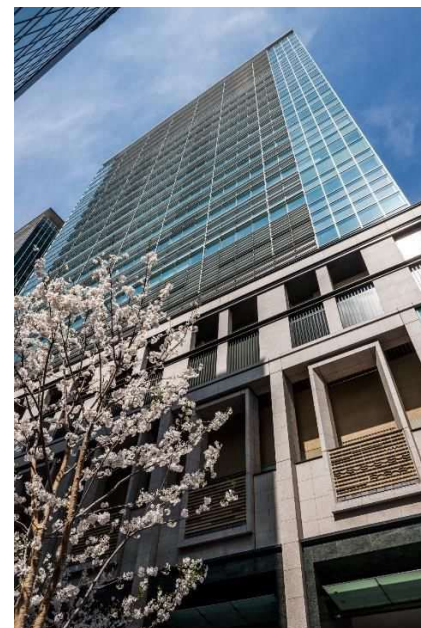
金融サービスの提供及び利用環境の整備等に関する法律
(2024年2月1日施行)

目的

適切な金融サービスの利用等に資する金融又は経済に関する知識を習得し、これを活用する能力の育成を図るための教授及び指導(金融経済教育)を推進すること。

所在地

室町古河三井ビルディング (コレド室町2)
東京都中央区日本橋室町2-3-1 9F



ミッション

私たちは、一人ひとりが描くファイナンシャル・ウェルビーイングを実現し、自立的で持続可能な生活を送ることのできる社会づくりに貢献します。

ビジョン

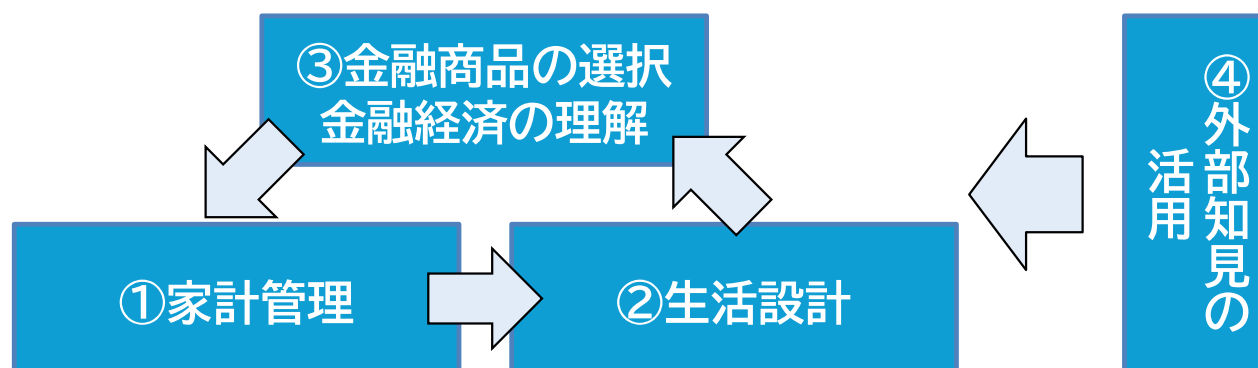
私たちは、金融リテラシーの向上を図るプラットフォームとして、時代の移り変わりと個人の多様性に即した金融経済教育を提供し、いまと未来の暮らしをより良くする金融サービスの活用や資産の形成と活用を支援します。



- ◆ 金融は国民にとって必ずしも親しいイメージを持たれているわけではない点を踏まえ、キャラクター性のあるロゴマークを採用。
- ◆ 子供から大人まで全員に対して優しく、ポジティブな印象を与えるコミュニケーションデザインとしてシンプルな造形ながら刻印が笑顔になっている様を表現。
- ◆ また、数字や記号など幅広いバリエーションで制作可能なため、一貫した優しく、親しみやすいイメージをつくりあげられる汎用性の高いデザインとなっている。

- 国民一人ひとりが、経済的に自立し、安心かつ豊かな生活を送るためには、家計管理や生活設計といった基本的な金融知識に加え、それぞれのライフプランに合った金融商品・サービスをより適切に選択し、安定的な資産形成を行う必要性を理解するなど、**金融リテラシー(注)**を向上させていくことが重要。

(注)金融リテラシーとは、経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な「お金に関する知識や判断力」のこと。



- 金融経済教育を通じて金融リテラシーを高めることは、一人ひとりが描く**ファイナンシャル・ウェルビーイング(注)**の向上に繋がる。

(注)自らの経済状況を管理し、必要な選択をすることによって、現在及び将来にわたって、経済的な観点から一人ひとりが多様な幸せを実現し、安心感を得られている状態。



ステップ

1

講師派遣(出張授業)、イベント・セミナー

金融経済教育の機会を提供し、
ライフプラン・家計管理・資産形成などの重要性について理解していただく。

J-FLEC

ステップ

2

「J-FLECはじめてのマネープラン」無料体験

1時間の無料相談体験を通じて、自分自身が取べき具体的な行動を知っていただく。
また、お金に関するアドバイスの価値や意義を認識していただく。

J-FLEC

ステップ

3

「J-FLECはじめてのマネープラン」割引クーポン

相談料の割引クーポンを配布することによって、実際にお金に関するアドバイスを受けるきっかけとしていただく。そして、自分自身が取べき具体的な行動についての理解を深めていただく。

J-FLEC
認定アドバイザー

個人の金融意識・
金融行動の変容

一人ひとりが描くファイナンシャル・
ウェルビーイングの実現



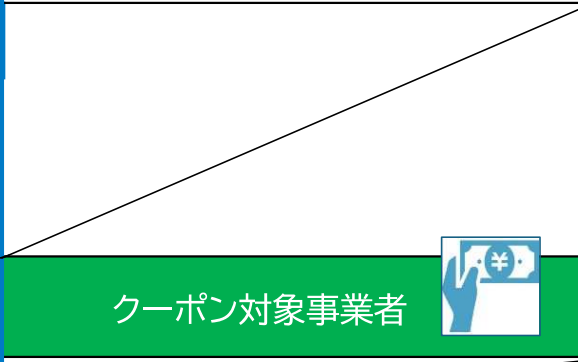



2. 中立・公正な教育の担い手 J-FLEC認定アドバイザー

□ J-FLEC認定アドバイザー(称号)とは

- J-FLECが定める認定要件に合致し所定の審査を通過した個人について、一定の中立性を有する顧客の立場に立ったアドバイザーとして、J-FLECが認定・公表する称号です。
これにより、誰が信頼できるアドバイザーかを見える化しています。
- J-FLEC認定アドバイザーの中から、希望者について追加で審査を行い、J-FLECが行う事業の担い手として、J-FLEC講師・J-FLEC相談員・クーポン対象事業者を選定しています。

J-FLECが行う事業

J-FLEC認定アドバイザー(称号)				
【J-FLEC内】			【J-FLEC外】	
<J-FLEC事業概要>			<事業の担い手>	
ステップ 1	① 講師派遣事業		J-FLEC講師	
	② イベント・セミナー事業			
ステップ 2	③ 「J-FLECはじめてのマネープラン」 無料体験事業	J-FLEC相談員		
ステップ 3	④ 「J-FLECはじめてのマネープラン」 割引クーポン配布事業		クーポン対象事業者 	
	⑤ 学校等への支援事業	J-FLEC講師		
◎ J-FLEC認定アドバイザーの普及事業			J-FLECの事業以外であっても、 J-FLEC認定アドバイザーの称号は、 中立性を有する顧客の立場に立った アドバイザーの証明として活用可能	

分類	資格等	資格に関する 業務経験の年数
A	CFP®、1級ファイナンシャル・プランニング技能士、投資助言・代理業者のいずれかに該当する者	1年以上
B	AFP又は2級ファイナンシャル・プランニング技能士であり、かつ前頁(アドバイスを提供するために有益な資格及び一定の業務経験(例))に掲げる資格を他に一つ以上有する者	3年以上
C	AFP又は2級ファイナンシャル・プランニング技能士である者	5年以上
D	一種外務員資格を有し、かつ前頁(アドバイスを提供するために有益な資格及び一定の業務経験(例))に掲げる資格を他に一つ以上有する者	5年以上
E	A～Dに掲げる者に該当しない者	10年以上

(注)審査基準は、あくまで審査における目安。

実際の審査に当たっては、業務経験の有無や年数だけでなく、中立・公正な金融経済に関するアドバイスが提供できるかどうかという観点で、保有資格、業務経験、経歴等を総合的に勘案して、合否を判定。

3. J-FLECの事業概要

- 「金融リテラシー・マップ」とは、「最低限身に付けるべき金融リテラシー」を、年齢層別に、体系的かつ具体的に記したものの。
- 2014年に、金融庁・消費者庁等の関係省庁・有識者・金融関係団体等をメンバーとする金融経済教育推進会議が作成。

【金融リテラシー・マップ(イメージ図)】

	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人	高齢者
家計管理	分野別・年齢層別に 体系的かつ具体的に記載					
生活設計						
金融取引の基本 としての素養						
金融分野共通						
保険商品						
ローン・ クレジット						
資産形成商品						
外部の知見の適 切な活用						

【具体的な内容の例】

1. 小学生向けの内容

- ・ 必要なもの(ニーズ)と欲しいもの(ウォンツ)を区別し、計画を立てて買い物ができる。
- ・ 困ったときにはすぐに身近な人に相談する態度を身に付ける。

2. 高校生向けの内容

- ・ 職業選択と生活設計を関連付けて考え、生涯の収支内容を理解して生活設計を立てる。
- ・ お金や金融・経済の機能・役割を把握するとともに、預金、株式、債券、投資信託、保険など基本的な金融商品の内容を理解する。
- ・トラブルに対処できる具体的方法を学び、実際に行使できる技能を身に付ける。

3. 社会人向けの内容

- ・ 金融商品を含む様々な販売・勧誘行為に適用される法令や制度を理解し、慎重な契約締結など、適切な対応を行うことができる。
- ・ 金融商品の特性(流動性・安全性・収益性)とリスク管理の方法を理解する。自らの生活設計の中で、どのように資産形成をしていくかを考える。
- ・ 金融商品を利用する際に相談等ができる適切な機関等を把握する必要があることを認識している。

(出所)金融経済教育推進会議「金融リテラシーマップ『最低限身に付けるべき金融リテラシー』の項目別・年齢層別スタンダード(2023年6月改訂版)」より作成。

1

講師派遣事業

- ◆ 全国の企業や学校等に、J-FLEC講師を派遣し、金融経済に関する出張授業(無料)を展開。

2

イベント・セミナー事業

- ◆ 全国各地で、社会人の方や事業会社(経営者の方)、教員の方などを対象とした、お金に関する無料イベント・セミナーを開催。

3

「J-FLECはじめてのマネープラン」無料体験事業

- ◆ J-FLEC相談員(J-FLEC認定アドバイザー)による個別相談の無料体験を、J-FLECにおいて、対面またはオンラインで実施。

4

「J-FLECはじめてのマネープラン」割引クーポン配布事業

- ◆ クーポン対象事業者(J-FLEC認定アドバイザー)による有料の個別相談をはじめて利用する方を対象に、相談料が80%オフ(1時間あたり最大8,000円まで割引)になる電子クーポン(3時間分)を配布。

5

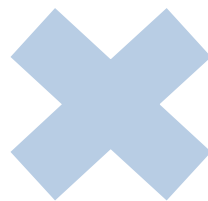
学校等への支援事業

- ◆ 金融経済教育に関する研究活動などに取り組む学校を指定し、教育研究費の助成やアドバイス提供を実施。

全国での 「学びの場」 の創出

- ✓ 講師派遣(出張授業)
- ✓ イベント・セミナー

等

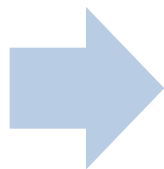


全国の 教育の担い手 の拡充

- ✓ J-FLEC認定アドバイザー

各地方・都道府県に所在するJ-FLECの関係団体^(注)によるサポート

(注)各都道府県金融広報委員会、日本証券業協会地区協会、各地銀行協会、財務局等



全国津々浦々に、身近な場での、定期的な
金融経済教育の機会を敷き詰めます

- 全国の企業や学校等に、所定の審査を通過したJ-FLEC講師を派遣し、金融経済に関する出張授業(無料)を実施しています。
- 講師派遣では、「金融リテラシー・マップ」に沿って、年齢層別に最低限身に付けるべき金融リテラシー(お金に関する知識・判断力)を習得いただけるような研修・授業を実施します。
また、より詳しく学びたい方向けの詳細なコンテンツも提供しています。
講義内容や時間については、講義テーマに応じて講師と事前調整することが可能です。

年齢層	学べる主な内容(例)
小学生	「おこづかいから学ぶお金の話」 ・おこづかいの使い方、貯め方、お金の流れ・トラブルの事例など ※ ドリル・ゲーム・クイズなども活用した参加型形式もあり
中学生・高校生	「大人になる前に知っておきたいお金の話」 ・収支管理の基本、お金の貯め方のコツ、資産形成と経済活動の関係性、クレジット・奨学金の仕組みと注意点、金融トラブルの防止など
大学生・若手社会人(10代~20代)	「社会人として知っておきたいお金の話」 ・家計管理や給与明細の見方、資産形成の基本(長期・積立・分散)や支援制度(NISAなど)、社会保険と民間保険、クレジット、奨学金、金融トラブルの防止など
中堅社会人(30代~40代)	「将来に向けて知っておきたいお金の話」 ・家計の現状把握から外部知見(お金の専門家)の活用を通じた将来設計・資産形成の考え方、社会保険と民間保険、各種ローン、金融トラブルの防止など
ベテラン社会人(50代以上)	「リタイア前後に知っておきたいお金の話」 ・定年退職後の生活を見据えた年金などの社会保険、退職金、税金の仕組みのほか、資産寿命の延伸、贈与・相続・終活などの概要



※ 特別支援学校向け、教員向けにも研修・授業を実施します。

※ 講義資料は、J-FLEC以外の教育活動を行っている方々にも参考としていただくため、J-FLECホームページにて公開しています。

- 年齢層に合わせた内容・表現で、家計管理、生活設計、資産形成、保険、ローン・クレジット、贈与・相続、金融トラブルに対する考え方など、幅広く学べるものとして、一般に公開しています。

【生活設計】

J-FLEC ② 生活設計(ライフプランニング) 8

○「将来どんな人生を送りたいか」についての構想を描くことを『生活設計(ライフプランニング)』といいます。

一人で世界中を旅行してみたい 好きなことをたくさん楽しみたい こんな家で暮らしていきたい

© 2025 J-FLEC All Rights Reserved.

(中学生向け教材より抜粋)

【家計管理】

J-FLEC ① おこづかい帳から何が分かる? 11

○ おこづかい帳をつけておくと、自分が何にお金を使ったかがすぐにわかるようになります。

○ 後から見てみると、『もしかしたらいらなかったかも』『別のものに使えばよかった』というふり返りができるようになります。

日付	なんで(だれからもらった・何に使った)	入ったお金	出たお金	残ったお金
1日	おこづかい	1000円		1000円
3日	おかしを買う		200円	800円
4日	えんぴつと消しゴムを買う		300円	500円
6日	おてだいをする	500円		1000円
10日	ジュースを買う		200円	800円
11日	おかしを買う		200円	600円
15日	ゲームセンターで遊ぶ		300円	300円
20日	おかしを買う		200円	100円
合計		1500円	1400円	100円

ちょっとおかしを買いすぎたかもしれない…

© 2025 J-FLEC All Rights Reserved.

(小学生向け教材より抜粋)

【資産形成】

J-FLEC ④ 資産運用におけるリスクの意味合い 31

○ 資産運用におけるリスクとは『運用成果の振れ幅』のことを指します。「リスクが大きい」とは、「とても危険」という意味ではなく、「大きく儲かるかもしれないし、大きく損をするかもしれない」(運用成果の振れ幅・不確実性が大きい)という意味です。

○ 『保険で備えるリスク(危険)』とは意味が異なります。

リスクが小さい リスクが大きい

運用成果 時間

振れ幅が小さい 振れ幅が大きい

© 2025 J-FLEC All Rights Reserved.

(中高大学生・社会人向け教材より抜粋)

【社会保険・民間保険】

J-FLEC ⑥ 日本の年金制度(公的年金・私的年金) 65

○ 日本の年金制度には、公的年金と私的年金があります。『公的年金は国民の老後生活の基本を支え、企業年金・個人年金と合わせて老後生活の多様なニーズに対応』しています。

私的年金 3層部分 iDeCo DB・企業型DC、iDeCo など iDeCo

公的年金 2層部分 国民年金基金 厚生年金(報酬比例年金)

基礎年金 1層部分

対象者分類 第1号被保険者(自営業者・学生・無職の人など) 第2号被保険者(会社員・公務員など) 第3号被保険者(第2号被保険者の被扶養配偶者)

※DBは確定給付企業年金、企業型DCは企業型確定拠出年金、iDeCoは個人型確定拠出年金を意味する

© 2025 J-FLEC All Rights Reserved.

(大学生・社会人向け教材より抜粋)

【贈与・相続】

J-FLEC ④ 財産を引き継ぐ備えの必要性 33

遺言書で必要ないよ。きつと、家族で話し合っで決めるだろう。

私はそれほど多くの資産を持っていないから、もめることはないはず。

<遺産分割事件の新受事件数と公正証書遺言作成件数>

(件) (万円)

2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024

新受事件数(調停) <左軸> 公正証書遺言作成件数 <右軸>

2025年(推定) 1,534件(19.4%) 2,810件(35.6%) 3,354件(42.4%) 約78%が5,000万円以下

1,000万円以下 5,000万円超 算定不能・不詳

© 2025 J-FLEC All Rights Reserved.

(シニア層向け教材より抜粋)

【金融トラブル防止】

J-FLEC ⑧ ポンジ・スキーム 88

元本保証で毎月1%の配当が確実に受け取れますよ

本当かな? でも魅力的な商品だから少しだけ投資してみよう

配当金をどうぞ! お友達にも勧めてください! 紹介料も払いますよ!

実際に運用していない

本当に配当がもらえた! これはすごい投資だ! もっと投資しよう!

(さて、そろそろかな…)

中止のお知らせ

元本保証で毎月1%配当がもらえる投資があるんだよ! 実際に私たちも儲かっているよ!

集めたお金を持って海外に逃亡した!

巨額の被害が発生

© 2025 J-FLEC All Rights Reserved.

(大学生・社会人向け教材より抜粋)

□ 2025年度は、9月末時点で1,641件の講師派遣を実施。

※2024年度:2,306件(本格稼働後の2024年8月26日(J-FLECとして申込みの受付を開始した日)以降に実施した件数)

※2025年度:3,622件(2025年9月末までの申込みの件数(上記1,641件を含む)。10月以降の申込みにより今後も継続的に増加)

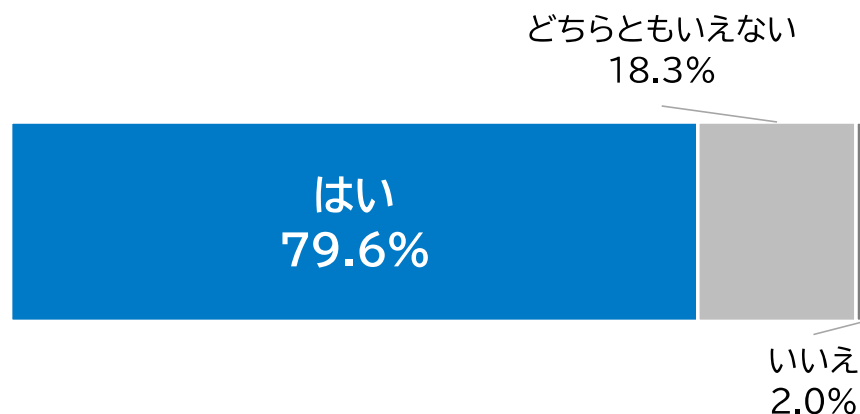
2025年度の講師派遣先の内訳(n=1,641)



□ これまでの受講者アンケートの満足度平均は4.42(5段階評価)。

※「今回の講義はいかがでしたか」に対する回答(大変よかった、よかった、どちらともいえない、いまひとつ、よくなかった)の平均。

受講前に比べて、金融経済に関する
興味・関心が湧きましたか



今後も金融経済について
学びたいと思いましたか



□ 受講者の主な感想は以下のとおり。

講師派遣先	主な感想
小・中・高 大学等	<ul style="list-style-type: none"> • お金に関することは普段なかなか考える機会がないので、子供たちの価値観を知れるいい機会になった。貯金箱作りを取り入れながら、子供が飽きることなく話を聞けたと感じました。(申込者) • どうお金を使っていいかわかった。お金のことを何も考えていなかったから考える機会ができて良かった。(中学生・高校生等) • 「詐欺には気をつけろ」とは言われていたものの、具体的に何が詐欺かを理解することが出来た。ローリスクハイリターンなどの言葉には注意したいと思った。(中学生・高校生等) • 正社員と非正社員の年収の違いや、厚生年金と国民年金の違いなど衝撃的な内容もあり、学べて良かった。(大学生・大学院生) • NISAやiDecoといった最近の制度について知ることができ、今後の社会人生活に役立てようと思ったため、良かったです。(大学生・大学院生)
企業	<ul style="list-style-type: none"> • 社会人になり、金銭関係を自分で管理する機会が増えたため、このタイミングで受講出来たことが良かった。また、収入と支出の見直しという身近な観点からの掘り下げも多く大変参考になった。(20代) • 将来の資金への備えについて改めて考えるきっかけになりました。(40代) • 投資や資産形成、税金等のライフプラン全般にはほとんど関心が無く知識も乏しかったので、具体的な説明を受け大変参考になりました。(50代)
公民館等	<ul style="list-style-type: none"> • 金融リテラシーについて、学校でも教えて頂ける機会が無かったので、このような機会はありがたかったです。(30代) • 家計やライフプランの設計など身近な話があり、資産運用の必要性を感じた。また、初心者が調べるのに必要な情報も提示してもらえたのでよかった。(30代) • 教育費の目安、社会保険と民間保険の考え方が参考になりました。(40代) • 年金、介護保険、健康保険のしくみを資料にそって自然と頭に描けた。(60代)

□ 全国各地で、講師派遣を実施中(2025年9月末時点)。

都道府県名	件数	都道府県名	件数	都道府県名	件数	都道府県名	件数
北海道・東北ブロック		北信越ブロック		近畿ブロック		四国ブロック	
北海道	39 (46)	新潟県	14 (81)	滋賀県	107 (35)	徳島県	10 (13)
青森県	19 (8)	富山県	25 (19)	京都府	25 (31)	香川県	22 (28)
岩手県	35 (111)	石川県	29 (47)	大阪府	69 (107)	愛媛県	16 (34)
宮城県	14 (20)	福井県	39 (27)	兵庫県	44 (73)	高知県	3 (13)
秋田県	25 (23)	長野県	15 (26)	奈良県	24 (21)	九州・沖縄ブロック	
山形県	6 (21)	中部ブロック		和歌山県	8 (37)	福岡県	36 (26)
福島県	21 (45)	岐阜県	62 (43)	中国ブロック		佐賀県	4 (48)
関東ブロック		静岡県	24 (26)	鳥取県	14 (31)	長崎県	20 (16)
茨城県	17 (28)	愛知県	58 (169)	島根県	3 (51)	熊本県	5 (11)
栃木県	57 (120)	三重県	36 (39)	岡山県	23 (42)	大分県	31 (35)
群馬県	14 (27)			広島県	60 (74)	宮崎県	19 (31)
埼玉県	71 (59)			山口県	35 (33)	鹿児島県	21 (11)
千葉県	61 (94)					沖縄県	56 (108)
東京都	227 (238)						
神奈川県	61 (61)						
山梨県	17 (19)						

合計:1,641件 (2,306件)

(注)上記は、2025年度にJ-FLECとして講師を派遣した件数である。()内は2024年度の件数。

- ❑ 全国各地で、社会人の方や事業会社(経営者の方)、教員の方などを対象とした、お金に関する無料イベント・セミナーを開催しています。
- ❑ 忙しくて時間がない方、遠隔地にお住まいの方にもご参加いただけるよう、イベント・セミナー会場だけでなく、オンラインによる参加やオンデマンド動画による視聴も可能としています。

【イベント・セミナー例】

対象層	主な内容等
社会人	「社会人として身に付けておきたいお金の話」 <ul style="list-style-type: none"> ・収支管理・資産形成の基本や利用できる制度(NISA等)、社会保険と民間保険など
事業会社 (経営者)	「職域における金融経済教育のメリット」 <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保の観点からの金融経済教育の重要性、企業における取組み事例の紹介など
教員向け	「基礎から知りたいお金の話」 <ul style="list-style-type: none"> ・先生自身に知っていただきたい、家計管理・資産形成などの基本とポイント 「生徒に伝えたいお金の話」 <ul style="list-style-type: none"> ・授業でお金について教える際のポイント、授業で使えるJ-FLEC教材の体験など
親子向け	「お金の使い方・貯め方体験プログラム」 「会社の仕組みやお金の流れを学習できるワークショップ」



- イベントに参加できなかった方や忙しくて長時間の動画が見れない方向けに、J-FLECのイベント動画や金融経済教育を学べる短い動画などをYouTube等で提供しています。



金融経済教育推進機構 (J-FLEC) チャンネル

@j-flec・チャンネル登録者数 1830人・218本の動画

J-FLECは、金融経済教育を推進するため、法律に基づいて設立された中立・公正...さらに表示

j-flec.go.jp、他1件のリンク

チャンネル登録

ホーム 動画 ショート 再生リスト



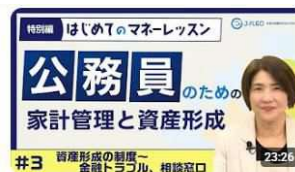
「保険」に関する疑問に専門家が回答 | お金のなんでも1分相談所 | J-FLEC



「投資詐欺」に関する疑問に専門家が回答 | お金のなんでも1分相談所



はじめてのマネーレッスン特別編～教職員ご自身のための家計管理と...



はじめてのマネーレッスン特別編～公務員のための家計管理と資産形成～ (③資産形成...



第1回はじめてのマネーレッスン (③保険～ローン・クレジット)



お金のキホン「多重債務」チャプター1 (字幕あり)



年金セミナー「明日ともだちに話したくなる年金のハナシ」公開！

募集期間: 2024年12月11日～2024年12月31日

アーカイブ動画



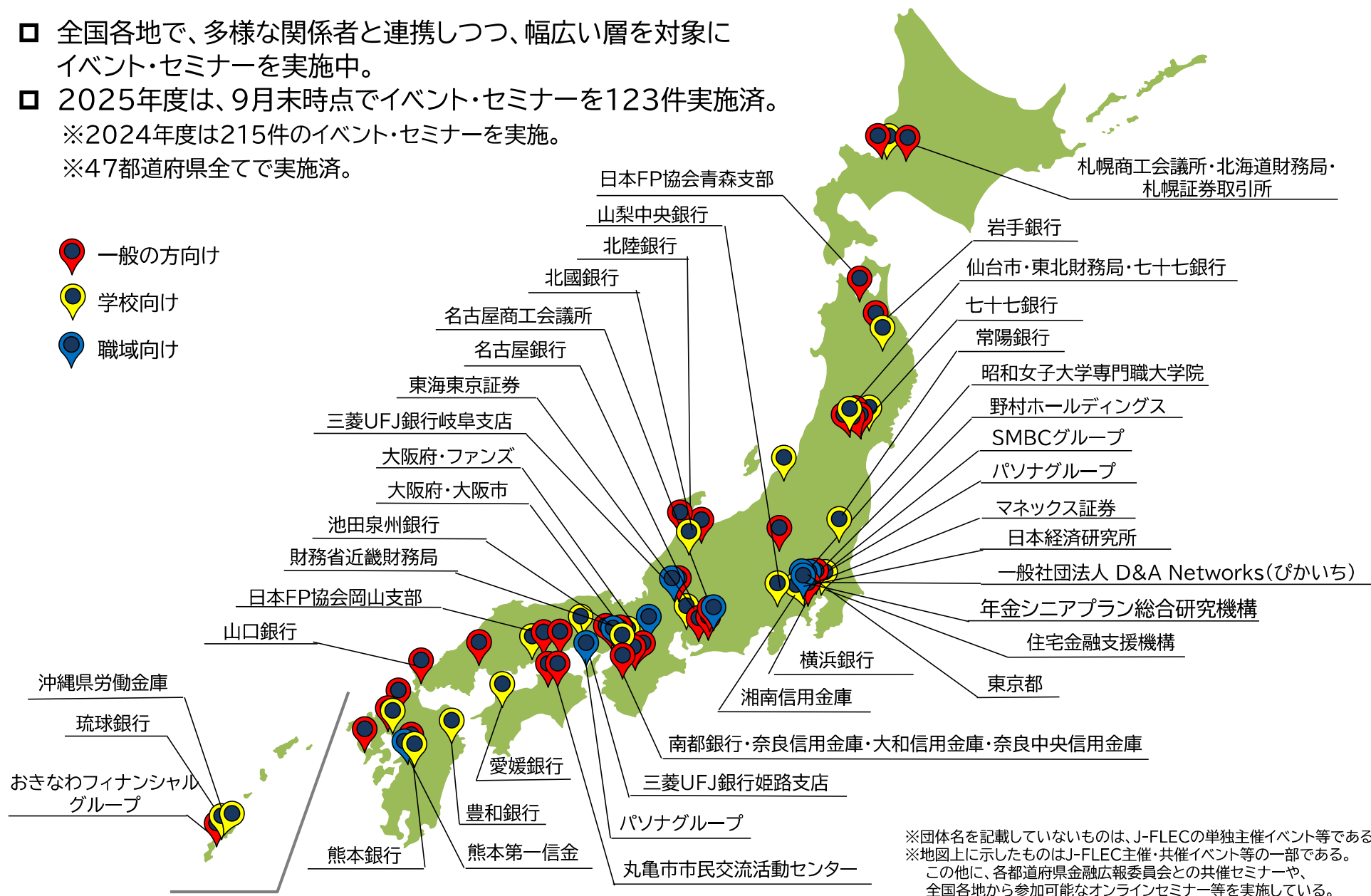
【オンライン開催】～将来を見据えたお金のキホン～ NISAとiDeCoで始める資産形成セミナー

募集期間: 2024年8月1日～2024年9月25日

アーカイブ動画



- ❑ 全国各地で、多様な関係者と連携しつつ、幅広い層を対象にイベント・セミナーを実施中。
- ❑ 2025年度は、9月末時点でイベント・セミナーを123件実施済。
※2024年度は215件のイベント・セミナーを実施。
※47都道府県全てで実施済。



※団体名を記載していないものは、J-FLECの単独主催イベント等である。
 ※地図上に示したものはJ-FLEC主催・共催イベント等の一部である。
 この他に、各都道府県金融広報委員会との共催セミナーや、全国各地から参加可能なオンラインセミナー等を実施している。

対面・オンライン相談

- お金に関するアドバイスの価値や意義を知っていただくきっかけとするため、**J-FLEC相談員(J-FLEC認定アドバイザー)による個別相談の無料体験を対面またはオンラインで提供しています。**
 - ◆ 無料体験は最大1時間で、事前予約制です。
個人の状況に寄り添ったアドバイスを提供するため
事前予約の際に相談したいテーマ等を記入いただきます。
- (相談テーマ例)
- ライフプランの立て方、家計の見直し、教育資金の準備、
住宅ローンの借入れ、金融資産の運用、リタイアメントプラン 等
- ◆ 個別具体的な税金等の計算、個別の金融商品等に関する相談はできません。



電話相談

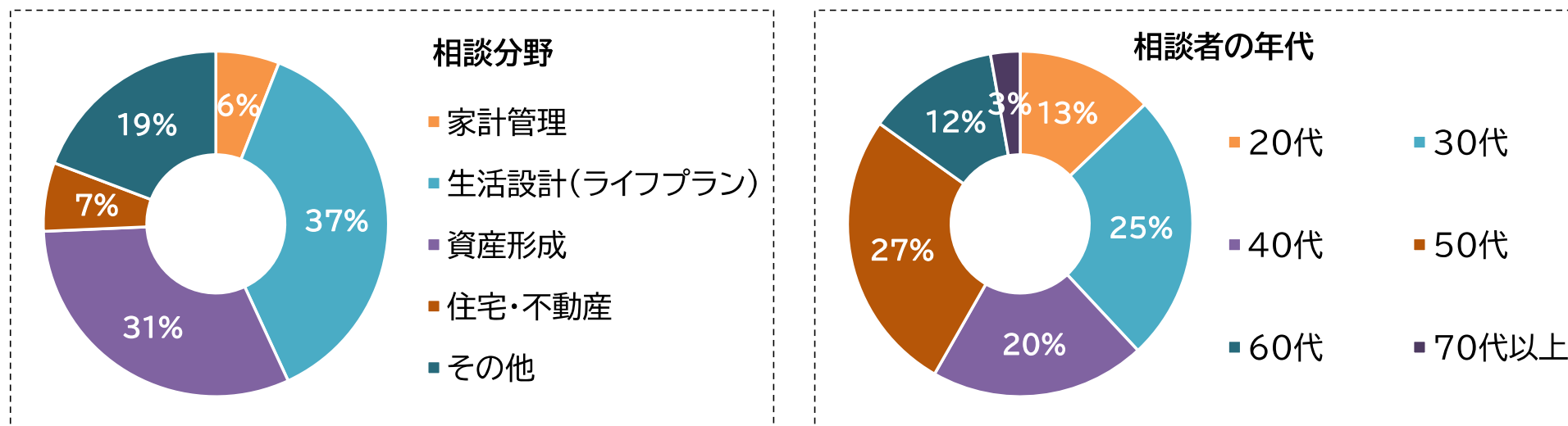
- 上記の対面・オンライン相談とあわせ、「家計管理」やNISA・iDeCo等の「資産形成支援制度」、**「金融商品・サービス」等に関する疑問や質問について**
J-FLEC相談員(J-FLEC認定アドバイザー)が回答する電話相談窓口を設置しています。
 - ◆ 電話相談は最大30分間で、事前予約は不要です。
「家計の見直しは何から始めればいい?」、「NISAってどんな制度?」、
「これって金融トラブル?どこに相談すればいい?」など、お気軽にご相談ください。
 - ◆ 個別具体的な税金等の計算、個別の金融商品等に関する相談はできません。

□ 2025年度は、9月末時点で114件の個別相談を実施。

※2024年度は104件の個別相談を実施。

□ これまでの相談者アンケートの満足度平均は4.71（5段階評価）。

※「今回の相談はいかがでしたか」に対する回答（大変よかった、よかった、ふつう、あまりよくなかった、よくなかった）の平均。



【主な感想】

- ・ どの金融機関にも属さない、専門家の方に客観的に相談できるというのがとても良かったです。
- ・ こちらが疑問に感じている部分を明確にさせていただき、考えるべき材料を示してくださいました。また、当初予定していなかった疑問点への改善提案をしていただき、相談してよかったと感じています。
- ・ 出回っている事例と自分の状況が違っている箇所をどう考え、どう判断すればいいのかが今一つわからなかったのですが、具体的に自分の状況を見ていただいて、フィードバックをいただけた。
- ・ 私の知識レベルに合わせて、不安を解消するために行ったことが良いことをアドバイスいただいたのが良かったです。

□ 2024年11月26日から、「はじめてのマネープラン」割引クーポンの申込受付を開始。

【割引クーポン事業概要】

- ・J-FLEC認定アドバイザーによる有料の個別相談を初めて利用する方を対象に、相談料の8割(1時間あたり上限8,000円、最大3時間合計で上限24,000円)を補助する電子クーポンを配布。
- ・クーポンを利用した個別相談では、「収入と支出の見える化」、「資産と負債の見える化」と「ライフプラン表の作成」について、さらに、その結果等を踏まえた具体的な行動として、「資産形成プランの検討」や「アセットアロケーション(金融資産の種類・配分調整)の提案」などについて、相談することが可能。

※2025年度のクーポン配布件数は3,000名分を予定し、年度を通じて均等に配布できるよう、4月～9月に1,500名分、10月～3月に1,500名分を目安にクーポンの利用申請を受け付ける。

【3時間分の個別相談の内容(例)】



赤枠内の内容は割引クーポン配布事業の必須要件

□ 2025年度は、9月末時点で349件のクーポンを配布。

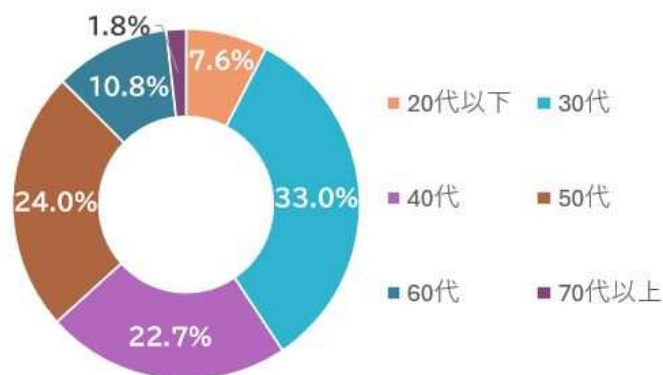
※2024年度は264件のクーポンを配布。

□ 2025年9月末時点で354名をクーポン対象事業者として登録。

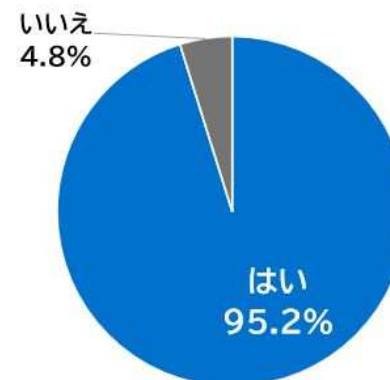
□ これまでの利用者アンケートの満足度平均は4.84(5段階評価)。

※「相談したJ-FLEC認定アドバイザーの対応はいかがでしたか」に対する回答(大変よかった、よかった、ふつう、あまりよくなかった、よくなかった)の平均。

クーポン利用者年代分布



今後も有料のアドバイスを受けたいですか

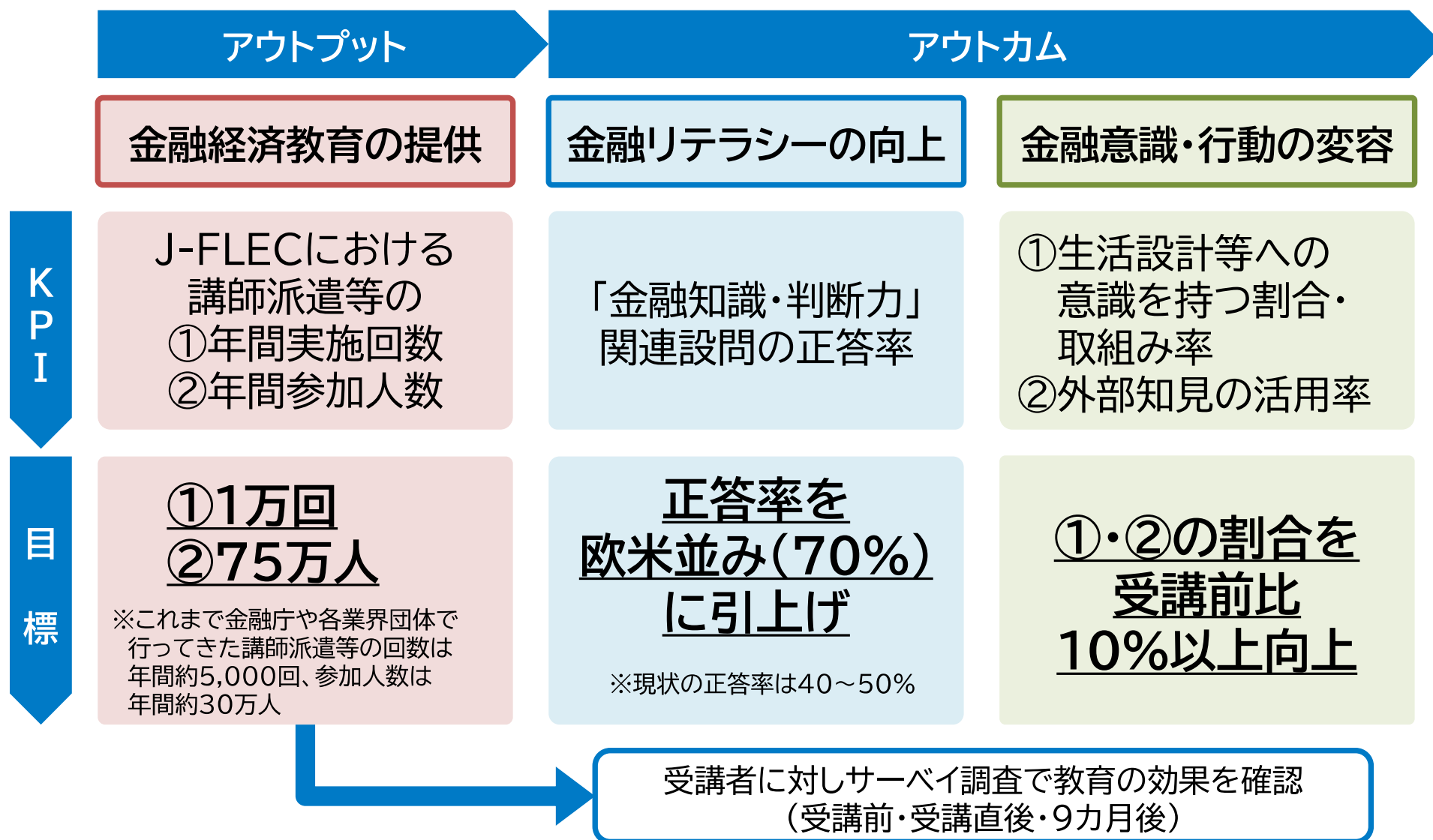


【主な感想】

- ・これまでFP相談をしてみたいなと思いつつ、どのアドバイザーにお願いすればいいか決めかねていたが、クーポンの存在も含め、J-FLECのwebサイト経由で依頼してみて、全体的に非常に満足度が高かった。
- ・お金に関する相談ではありましたが、自分と家族のこれからの人生について改めて向き合うことができた、貴重な時間でした。
- ・住宅ローンと返済計画について自分の収支と資産状況から具体的な着眼点を分析し、現実みのあるアドバイスを頂けたことで、漠然とした不安が安心になった。今後も、困ったときはご相談したいと思った。

4. J-FLECの今後の展望

- J-FLECでは、KPI・目標として、金融経済教育の提供(アウトプット)、金融リテラシーの向上、金融意識・行動の変容(アウトカム)を設定しています。



- ◆ 中立公正な組織として、偏りのない金融経済教育を推進
 - 家計管理・生活設計・資産形成・金融トラブル防止など広く教育
- ◆ 金融機関を兼業していない認定アドバイザーなど、中立公正なJ-FLEC講師が教育の担い手
 - 営業を受けることが苦手な方も、安心して学べる環境
- ◆ 企業にも、学校にも、地域の公民館にも、広く展開
 - 誰一人取り残さない学びの場を提供

5. 大学生向けデモ授業

CONTENTS

- ① 金融リテラシーとは
- ② 働いて稼ぐ(職業選択の重要性)
- ③ 生活設計(ライフプランニング)の大切さ
- ④ 収支管理の基本
- ⑤ 奨学金



1 金融リテラシーとは

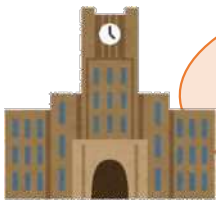
○ 日々の生活で、お金に関する疑問や悩みを抱えていませんか？『適切な判断を行うには何が必要』でしょうか。



毎月の生活費でぎりぎり。
お金の管理はどうすればいい？



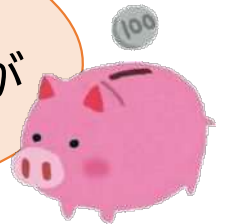
クレジットカードの
支払いが多すぎる。
どうしてだろう？



奨学金って
今後自分にどう影響するの？



将来のために
資産形成も考えた方が
いいのかな。



SNSに出てた
「絶対にもうかる」話って
詐欺じゃないの？



- 金融リテラシーとは、経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な『**お金に関する知識や判断力**』のことです。
- 金融リテラシーを育むことは安心した生活に繋がります。

金融リテラシーが高い人の特徴

- 家計管理がしっかりしている。
- 計画を立ててお金を準備しているので、やりたいことを実現しやすい。
- 緊急時の備えがあるので、危機(自身のケガや病気、不景気による収入減など)に強い。
- 詐欺や多重債務などの金融トラブルにあうことが少ない。
- **経済的に自立し、より良い暮らしを送ることができる。**





2 働いて稼ぐ (職業選択の重要性)



- みなさんは将来、どのような仕事に就きたいと考えていますか？
- 仕事を選ぶ際、何を重視しますか？



- 仕事選びの基準は人それぞれです。
- 自分の夢や希望を実現することが大切ですが、同時に、社会人として自立するために「収入」も重要な要素となります。
- 「どう働いて『稼ぐ』か」を考えることが重要です。

【大学生の就職意識】

単位：%

収入のため	自分の夢のため	人や社会のため※	楽しく働きたい
8.2 (5.0)	9.2 (10.2)	15.6 (16.9)	38.9 (38.6)
大企業志向		中堅・中小企業志向	
53.7(52.7)		42.9 (43.4)	

※「人のためになる仕事をしたい」「社会に貢献したい」の合計

(注)カッコ内は5年前(2020年卒)調査

(出所)マイナビ「2025年卒マイナビ大学生就職意識調査」をもとに作成

(1) 労働と収入

— 人はなぜ、働くとお金をもらえるのでしょうか。

(2) 付加価値

— なぜ、同じ1時間働いても「稼ぎ」はそれぞれちがうのでしょうか。

- 「働く」ということは、世の中に対して、**自分の時間や頭・体などを使って、価値を提供すること**です。価値に対する他人からの評価が、給料などの形で働いた人に返ってきます。
- 働いて「どの程度の収入が得られるか」は、**みなさんが提供できる「付加価値」の大きさ**と関係しています。
- 多くの人が働いて「付加価値」を世の中に提供しています。
- 働き方によって**収入は異なります**。
- 特に「人生100年」時代には、社会や経済の変化に応じた、柔軟な働き方も大事です。

(注)「付加価値」(value added)とは、「新たに付け加えられた価値」のことで、たとえば人や企業が、より良い商品やサービスを世の中に提供する(そのプロセスの一部を担う)ことを指します。一人一人が付加価値を生み出すことで経済は成長し、社会の発展にも貢献します。

(出所)金融経済教育推進会議コアコンテンツ

○『職業や働き方、稼ぎ方は多種多様』です。

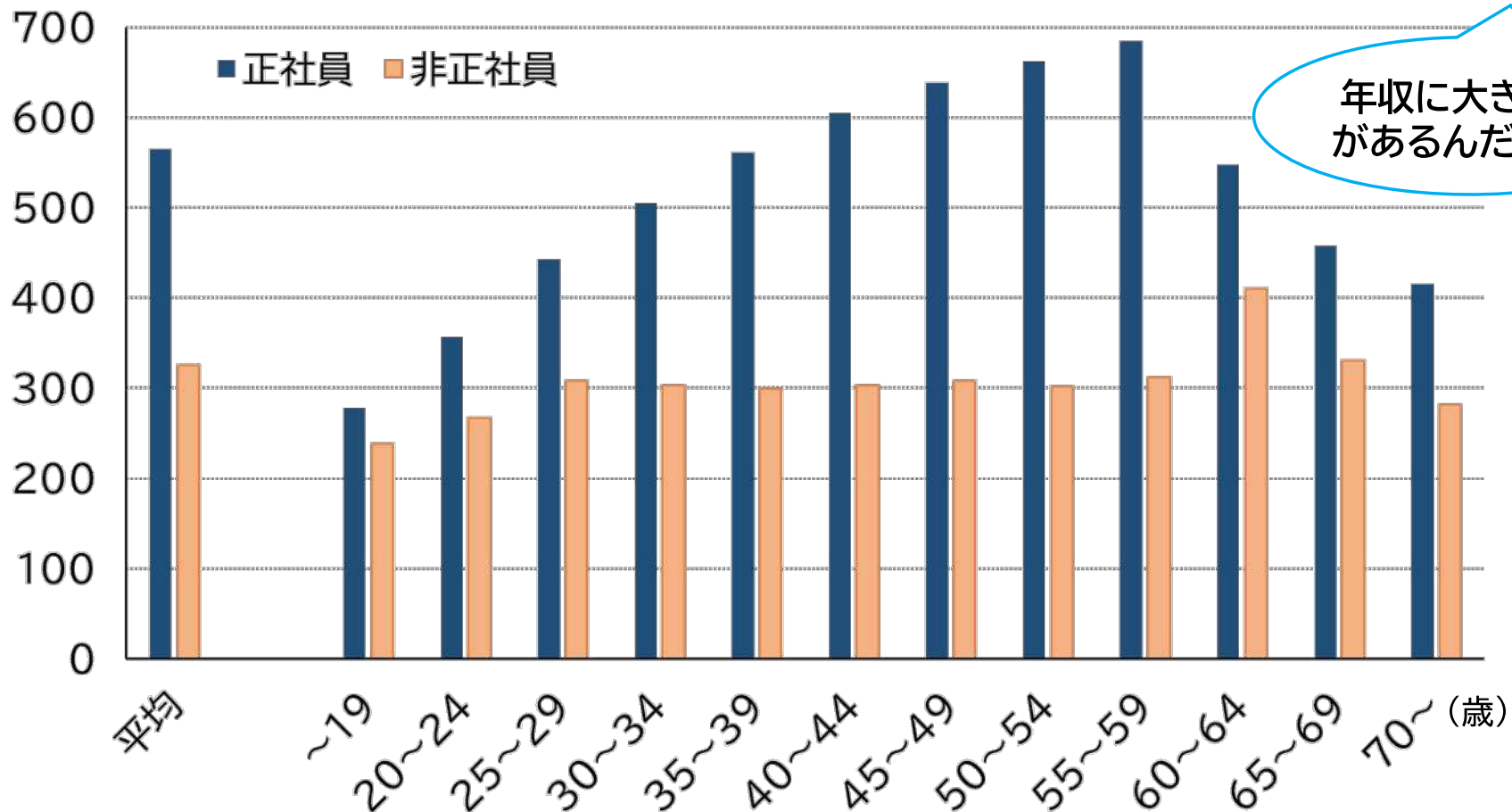
雇用される

- 会社員
(正社員、派遣社員など)
- 公務員
- アルバイト、パート など

それ以外

- 家業などを継ぐ
 - 起業する
 - フリーランス^(※) など
- (※)自身の経験や知識、スキルを活用し、
案件ごとに収入を得ている人
デザイナー、YouTuber、プログラマーに多い

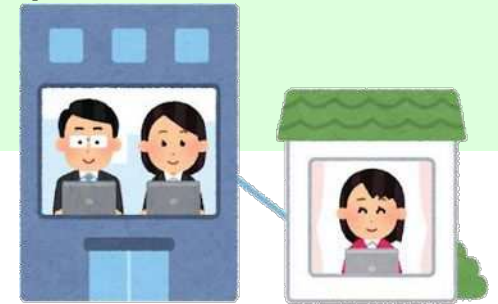
年額(万円)



推定年収 = 「きまって支給する現金給与額」×12ヶ月 + 「年間賞与その他特別給与額」として試算
(出所)厚生労働省「令和6年賃金構造基本統計調査」

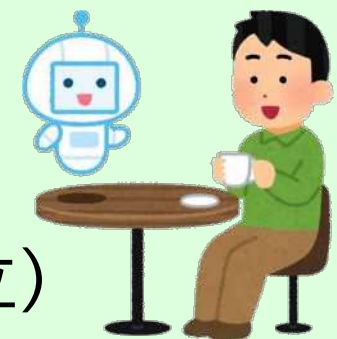
デジタル化

- ・ リモートワークの展開(「壁」が消える)
- ・ ビジネスチャンスの拡大(つながりやすくなる)
- ・ AI／ロボット化(味方？脅威？)



柔軟・多様な働き方

- ・ 時間・場所を選ばないワークスタイル
- ・ 副業・兼業・起業の広がり
- ・ ワーク・ライフ・バランス(子育て・介護等との両立)
- ・ 女性、障がい者、外国人材の参加



- 大学時代には、ライフデザインを描き、人生で実現したい夢を自覚するとともに、その夢を実現することができるよう、さまざまな能力を養っておくことが望めます。
- 特に、「将来、どのような仕事をするか」を考え、世の中に対して提供できる価値を高めることができるよう、能力を磨いていくことが大切です。
- 大学時代は、自分の自由になる時間が豊富にあります。「時間」という資源を、「能力」という資源に変換できるよう、時間を有効に使いましょう。発揮できる能力を少しずつでも着実に高めていくことが、経済的に自立することに結びつきます。



③ 生活設計 (ライフプランニング)の大切さ

○「将来どんな人生を送りたいか」についての構想を描くことを『生活設計(ライフプランニング)』といいます。

どんな仕事をしたい？

独身？ 結婚？

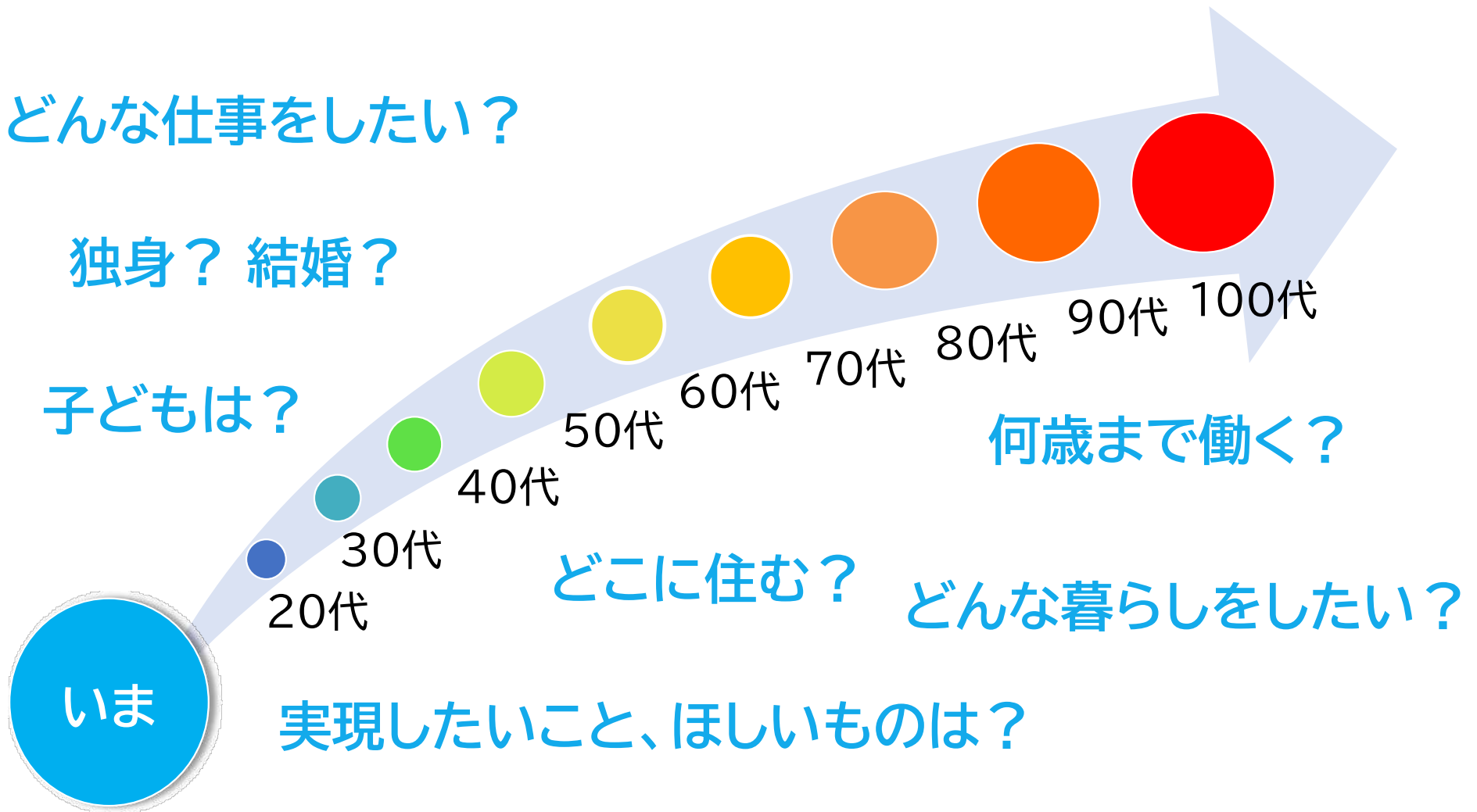
子どもは？

何歳まで働く？

どこに住む？

どんな暮らしをしたい？

実現したいこと、ほしいものは？



- ライフイベントによって大きな支出を伴うことが多くなります。
- 将来のライフイベントにかかる『必要金額をイメージ』しましょう。
- また、『想定外の支出もあり得ることをイメージ』しましょう。

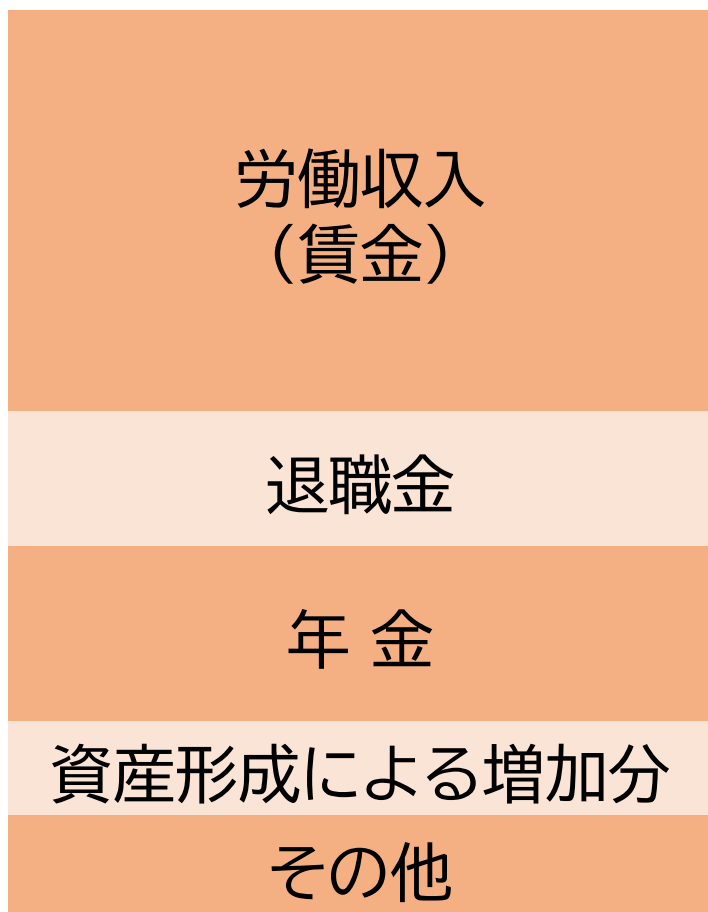
ライフイベントに必要な金額(費用)の例



※無償化・減税・補助などの各種制度は考慮していません。

○『生涯の収入と支出のバランスをとる』ことが大切です。

<生涯総収入>



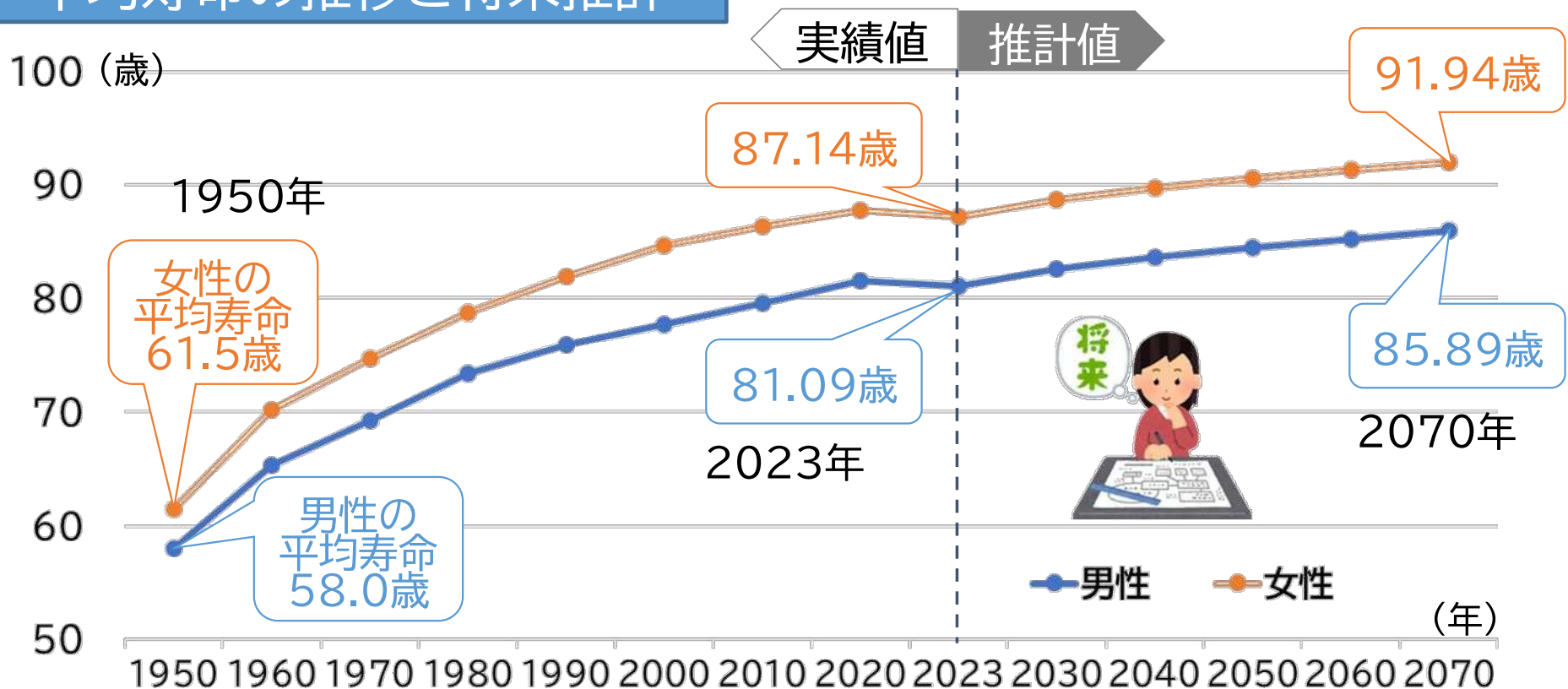
<生涯総支出>



※図は生涯総収入と生涯総支出の一例です

- 日本人の平均寿命は延びており、『長寿化に備えたマネープランを立てて準備する』ことが重要になってきています。

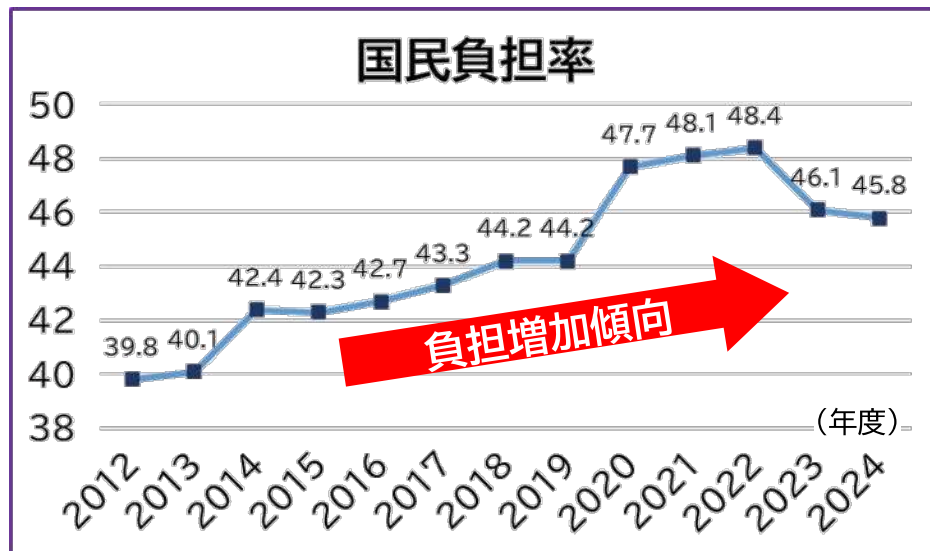
平均寿命の推移と将来推計



(出所)内閣府「令和7年版高齢社会白書」をもとに作成

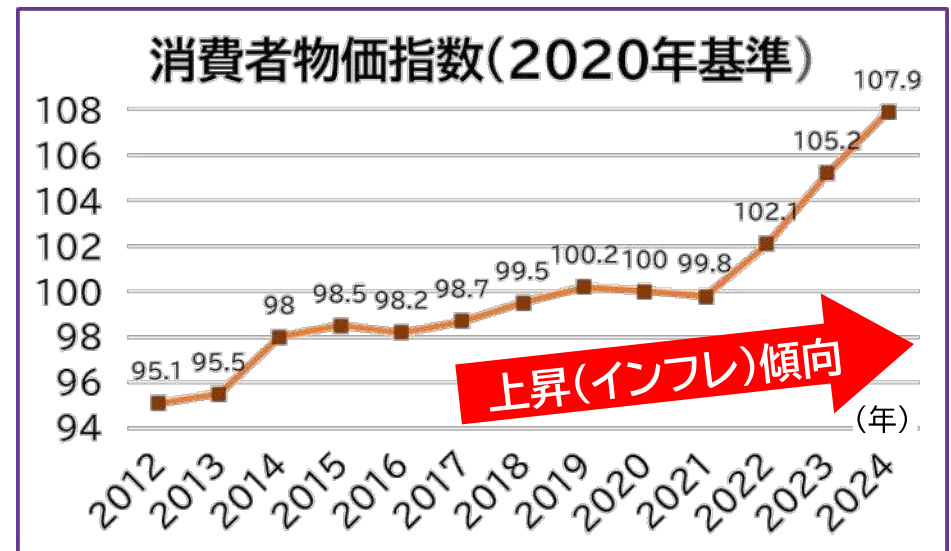
- 国民の所得に対する税・社会保障負担割合は増加傾向にあるほか、消費者物価指数も上昇傾向にあります。
『生活費の増加に対する備え』が必要です。

国民負担率※の変遷



(出所)財務省 負担率に関する資料をもとに作成


消費者物価指数の推移



(出所)総務省「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)年平均」をもとに作成

※国民負担率とは、国民全体の所得に占める税金と社会保障費の割合。
(租税負担率と社会保障負担率の合計)

自分が実現したいライフイベント
(+望まない緊急支出)には
いくらかかるのかをイメージしましょう。



『収入・支出のバランス』を意識し
「家計を管理する」ことが大切です。



将来的に必要なとなるお金は、計画的に
『資産形成(貯蓄・投資)で準備』しましょう。

○ 自身の生活設計の収支のバランスを確認してみましょう。

金融庁提供 ライフプランシミュレーター

現在のご自身やご家族の収入・支出などの情報や将来の計画を入力することで、将来の家計収支をシミュレーションし、結果をグラフで確認することができます。



金融庁 ライフプランシミュレーター

検索

日本FP協会提供 ライフプラン診断

世帯主情報・配偶者情報など9つの質問に答えることで、簡易的なシミュレーション作成とアドバイスを示してくれます。



- 診断したライフスタイル条件 -

- 世帯主：20代
- 世帯主：会社員・公務員（退職金あり）
- 配偶者：あり
- 配偶者：専業主婦
- 子ども：1人
- 世帯年収：500万円
- 生活費：20万円/月
- 住居費：10万円/月
- 貯蓄額：300万円



日本FP協会 ライフプラン診断

検索



4 収支管理の基本



○ 生涯を通して支払うことになるお金の原資は、**基本的には働いて得る月々の収入**です。

- ライフイベントに必要なお金は、基本的には月々の収入から支払います。
- 多額の費用がかかるイベントは、ローンを活用する方法もあります(ただし、あくまで借金のため、最終的には月々の収入から返済することになります)。



月々の収支を黒字にして、
将来の支出に備えることが大切です。

- 家計は収入と支出のバランスで成り立っています。
『支出は収入の範囲内に収める』ことが重要です。

収入と支出のバランスをとるためには

- ①収入と支出を把握する
－給与明細・家計簿 等
- ②支出を見直す
－住居費・通信費・遊興費 等
- ③お金を貯める・増やす仕組み化
- ④お金を3つ※に整理する

※「日常生活に必要なお金」「近い将来に使う予定のお金」
「当面使う予定のないお金」の3つ



- 給与明細から『**手取り収入** ÷ **可処分所得**』を把握し、その範囲内に支出を収めることが基本です。

給与明細の例

金額は概算 千円未満四捨五入(単位:円)

支給	基本給	時間外手当	通勤手当	総支給額
	250,000	10,000	10,000	270,000
控除	雇用保険	健康保険	厚生年金保険	社会保険料計
	1,000	14,000	26,000	41,000
	所得税	住民税	介護保険	税額計
	4,000	10,000	介護保険は 40歳から納付開始	14,000

非消費支出

可処分所得

$$\text{総支給額} - (\text{社会保険料} + \text{税金}) = \text{手取り収入}$$

$$270,000 - (41,000 + 14,000) = \mathbf{215,000\text{円}}$$

- 「手取り収入」とは、**自分の意思で使い道を決められるお金**のことです。
- 「手取り収入」は貯蓄や支出の基準となるため、自身の手取り収入を把握することが大切です。



「手取り収入」を、「今の生活」と「将来の生活」のためにどう配分するかを考えましょう。

大学生の場合

収入

仕送り
アルバイト代
奨学金

社会人の場合

収入

給与
賞与(ボーナス)



支出 ※金額を記入してみましょう。

食費	飲食などに必要なお金	円
住居費	家賃など	円
水道光熱費	電気・水道・ガスの料金	円
通信費	電話やインターネットの料金	円
交通費	移動するのに必要なお金	円
被服費	洋服代など	円
教養娯楽費	学習や娯楽に使うお金	円
ローン返済	クレジットやローン・奨学金の返済	円
その他	冠婚葬祭費や医療費など	円

+

貯蓄

使わずに貯めておくお金

○ 支出÷生活費の中には『**固定費と変動費**』があります。

固定費

(毎月発生する一定額の費用)

ー住居費(家賃・駐車場代 等)

ー水道光熱費

ー通信費(スマホ・ネット 等)

ー保険料(生保・損保 等)

ーローン返済(住宅・車 等)

ーその他(サブスク・習い事など)



変動費

(その時々で変動する費用)

ー食費

ー交通費・ガソリン代

ー遊興費(交際費・娯楽費 等)

ー風邪などでの医療費

ー日用品代・衣料品代

ーその他／雑費

等



○ 見直しのポイントは『**優先順位をつける**』ことです。

1. **ニーズ**と**ウォンツ**を区別する。

ー 必要なもの・こと(**Needs: ニーズ**)

ー 欲しいもの・やりたいこと(**Wants: ウォンツ**)

⇒ウォンツの中でも優先順位をつける



<ニーズ>



<ウォンツ>

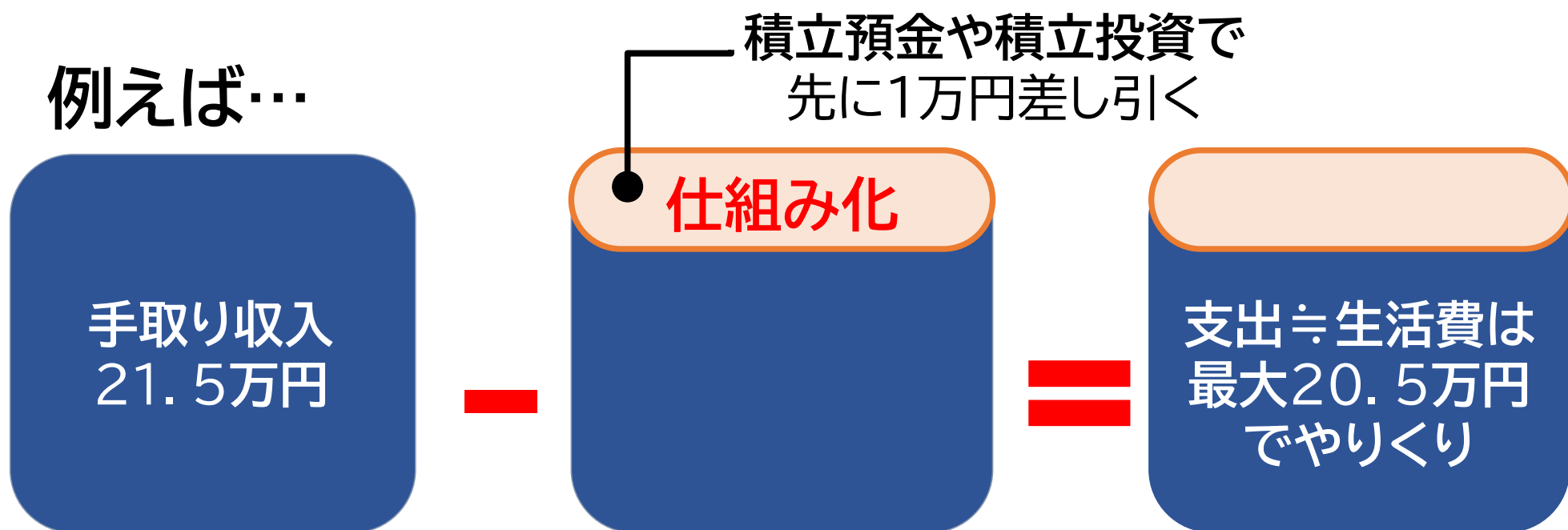
2. まずは**固定費**から圧縮、次に変動費の圧縮を行う。

ー 固定費(住居費・通信費・サブスクなど)は一度見直すと、毎月安定して支出削減できるので効果的です。

ー 習慣化された支出(たばこ、お酒など)の見直しも効果的です。

- 「お金に余裕ができたとき」に貯めるのは案外難しく、
『先に差し引くことがポイント』です。
- 無理のない範囲で「積立預金」や「積立投資」などを活用し、
『お金を貯める・増やす仕組みをつくる』ことが重要です。

例えば…



○ お金を「使う」「貯める」「増やす・備える」の3つに分類して、
『仕組み化で確保したお金を目的に応じて振り分け』ましょう。





5 奨学金の返済

- 大学在学中は、入学金・授業料のほかに生活費もかかります。
生活費まで含め『**大学生活では多くのお金がかかります**』。

単位:万円

	入学金 授業料等	生活費		合 計	
		自 宅	自宅外	自 宅	自宅外
国立大学	243	170	440	413	683
私立大学	519	170	426	689	945

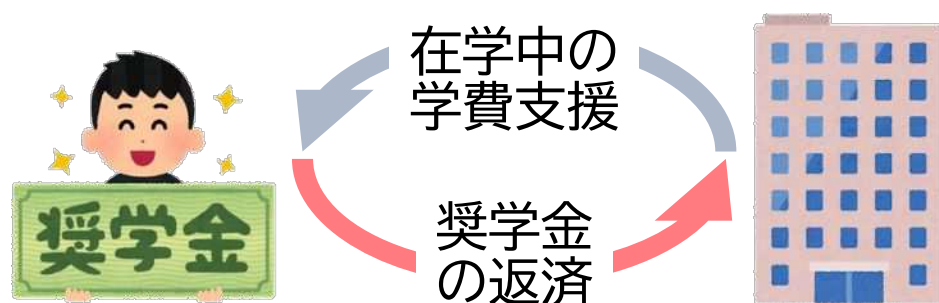
(出所) 次の資料をもとに4年間の合計金額を試算。

文部科学省「国公立大学の授業料等の推移」、「私立大学等の令和5年度入学者に係る学生納付金等調査結果」、日本学生支援機構「令和4年度学生生活調査結果」

※大学授業料無償化などの各種制度は考慮していません。

○ 奨学金とは、経済的な理由や家庭の事情で修学が困難な学生に『学費を給付または貸与する制度』です。

制度	特徴
給付型奨学金	<ul style="list-style-type: none">原則、返済の必要はありません。家計や学業成績の基準があります。
貸与型奨学金	<ul style="list-style-type: none">返済の必要があります。無利息と利息付があります。



※日本学生支援機構(JASSO)などが奨学金制度を運営しています。JASSOでは「返済」は「返還」と表記します。大学や企業などの奨学金もあります。

※従業員に対し、奨学金の返還額の一部または全額を支援する（代理返還する）取組みを行っている企業等もあります。

○ 以下の条件で、貸与型奨学金(利息付)を利用した場合、返済計画はどのようなになるでしょうか。

例1

- 国公立4年制大学に自宅から通学
- 授業料・生活費で計240万円(毎月5万円)を借りる
- 残りの生活費はアルバイトで稼ぐ

例2

- 私立4年制大学に自宅外から通学
- 授業料・生活費で計480万円(毎月10万円)を借りる
- 残りの生活費はアルバイトで稼ぐ

○ 貸与型奨学金を利用した場合、『卒業後に働いて稼いだ収入から奨学金の返済を行う』ことになります。

	例1	例2
借入総額	240万円	480万円
返済スタート	卒業7か月後から	
毎月の返済額	15,157円	23,635円
返済期間	15年間	20年間
総返済額	2,728,351円	5,672,485円

(注1)いずれの例も、貸与型奨学金(利息付)、毎月定額返済、**利率1.641%**、機関保証制度ありの場合でシミュレーションを実施。

(注2)返済方法を変更することで、もっと早く返済を完了させることも可能。

(出所)独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金貸与・返還シミュレーションをもとに計算。

【返還開始・返還中】

返還の開始

貸与終了の翌月から数えて7か月目の月から**就職の有無にかかわらず**※返還開始

※ 無職・未就職の場合は救済制度(後述)の申請が可能

繰上返還

次回以降に返還する分を繰り上げて返還できる制度

【返還方式】

所得連動返還方式

所得に応じて毎月の返還額が変動(返還期間も変動)※

※第一種奨学金のみ

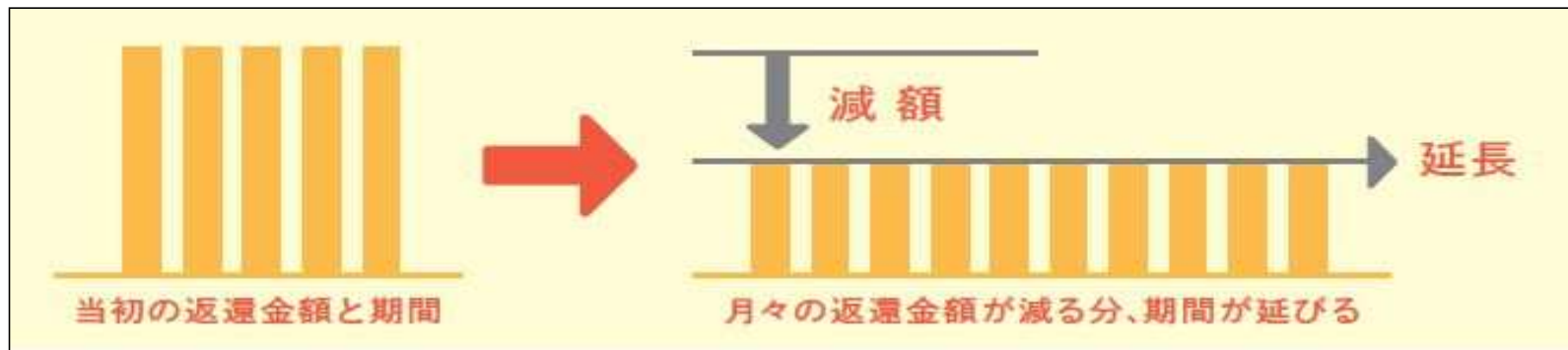
定額返還方式

毎月一定額を返還(返還期間も一定)

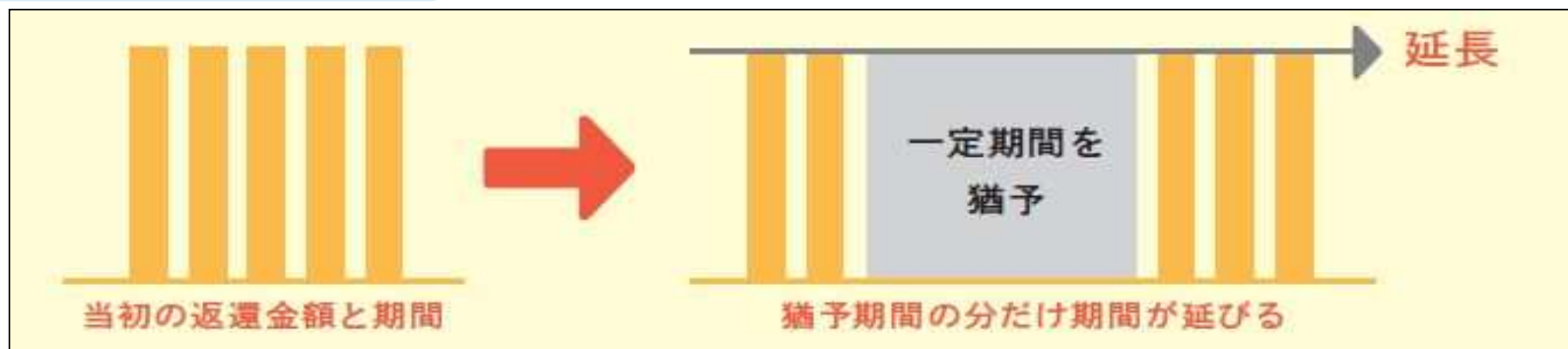
【返還が困難になったら(救済制度)】

～ 病気・失業等で奨学金の返還が困難になった場合 ～

減額返還 毎月の返還額を減額(1/2、1/3、1/4、2/3)して返還する制度



返還期限の猶予 返還を先送りする制度



(出所)金融経済教育推進会議 eラーニング講座「マネビタ」「お金を借りる」-「奨学金」

【返還が滞った場合】

- 延滞金の賦課(年3%)
- 債権回収会社からの電話督促
- 個人信用情報機関への登録

【機関保証】

- 代位弁済請求
- 保証機関からの請求・督促

【人的保証】

- 連帯保証人・保証人への請求
- 債権回収会社の回収
- 法的処理(支払督促申立等)

返還に困ったら、まずJASSO(日本学生支援機構)に相談してください！

○ J-FLECのホームページでは、皆さんの生活に役立つ、お金に関する様々な情報を掲載しています。



URL: <https://www.j-flec.go.jp/>

J-FLEC

検索

Step1



今日の講義で
お金に関する
基本を学んだ！



講義のポイントを見直して、今日の学びを振り返ろう

興味のあるテーマを
テキストや動画で詳しく学びたい

専門家の話をきいて、さらに
お金の知識や理解を深めたい

お金を学べる教材・動画公開中！



無料イベント・セミナー
開催中！



Step2



自分のお金について、
専門家に相談したい！

「J-FLECはじめての
マネープラン」**無料体験**



対面・オンライン相談

最大1時間、Web予約

電話相談

※匿名可

最大30分、予約不要
0120-55-1209

Step3

さらに詳しく相談したい！

「J-FLECはじめての
マネープラン」**割引クーポン**



「はじマネクーポン」とは？

有料相談をはじめて利用する方を対象に相談料の一部をJ-FLECが補助。
「家計の見直し」や「ライフプラン表作成」
「資産形成プランの検討」など様々なアドバイスを受けられます。

いくら割引になるの？

相談料の8割(1時間あたり上限8,000円、3時間合計で上限24,000円)を割引。

専門家が中立・公正な立場からアドバイスを行います

商品の勧誘は一切ありません

J-FLEC (ご紹介)10月22日(水) オンライン資産形成セミナー

～将来を見据えたおかねのキホン～

NISAとiDeCoで始める 資産形成 セミナー 2025

参加無料/事前申込不要

2025年
10/22(水)
18:30～20:00

NISA iDeCo

*オンライン(YouTube ライブ配信)開催

プログラム

- 1 金融庁長官メッセージ
- 2 金融リテラシー総論
J-FLEC認定アドバイザー 上原 千華子
- 3 NISA制度とその活用方法
金融庁 金融経済教育推進室 森田 壮一郎
- 4 iDeCo制度・財形貯蓄制度とその活用方法
厚生労働省年金局 企業年金・個人年金課 乃一 清通
- 5 Q&Aコーナー
事前質問受付フォームでいただいたご質問に講師がお答えします!

*本プログラムは予告なく変更となる場合がございます。

長寿化やライフスタイルの多様化が進む今、お金が必要なタイミングや金額は人それぞれで、ライフプランに沿った資産形成が大切です。

お金に関する正しい知識を習得し、経済的に自立することは、ウェルビーイングな人生を送るうえで非常に重要とされています。

今、話題のNISAやiDeCoについてもしっかり学んで、資産形成やお金について、一緒に考えてみませんか。

視聴方法

下記のURLもしくはQRコードからご参加ください！
<https://youtube.com/live/hjuTU9P45Es?feature=share>
*事前質問は下記URLもしくはQRコードにて受け付けています！
<https://forms.office.com/r/MYuwmbefu>

事前質問受付フォーム 視聴ページ

セミナー終了後、金融経済教育推進機構(J-FLEC)のYouTubeチャンネルにて、アーカイブ動画の配信を予定しております。チャンネル登録よろしくお願ひします！
J-FLECチャンネル: <https://www.youtube.com/@j-flec>

主催 J-FLEC 金融経済教育推進機構

金融庁 Financial Services Agency

厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

お問い合わせ先: shisankeisei2025@fsa.go.jp

【J-FLEC・金融庁・厚生労働省の3者共催】

- －NISA・iDeCoの基礎と活用方法について担当省庁が分かりやすく解説
- －大学生・高校生にとってもイメージアップしやすい講義内容
- －参加無料・事前申込不要なので、興味があれば誰でも参加・視聴可能

(視聴QRコード)



- 資産形成に限らず、お金について考えることは生きていく中で避けては通れない。学生の今しかできない経験(成功も失敗も)が必ずある。
- 興味のアンテナを高くして、様々なことにチャレンジしてほしいが、分からないままやるのと 理解したうえでやるのでは、結果から学べる内容に明確な差が出る。
- これから社会人になっていく皆さんだからこそ、学びの機会を大事にして、自身の生活をより良いものにすることとあわせて、地域経済にも是非貢献してほしい。

- 本資料における記載事項は、本資料の日付時点のものであり、今後変更となる可能性があります。
- 本資料の無断転用・転載・使用を禁じます。